

プラスチックレモン

1万年後も、おどろくしやへつて

作 広田淳一

【登場人物】

羽化（ウカ）

フリーターの女

天秤（テンビン）

その友人

射的（シヤテキ）

引越し屋の青年

日食（ニツシヨク）

その上司。

珊瑚（サンゴ）

その同僚の女。

新月（シンゲツ）

理論物理学者の女

帳尻（チヨウジリ）

理論物理学者の男

理屈（リクツ）

理論物学者

糸口（イトグチ）

理屈の部下

挨拶（アイサツ）

ブログを書く少女

白夜（ヒヤクヤ）

その姉

愉快（ユカイ）

その父

沈黙（チンモク）

考える青年

水飴（ミズアメ）

その恋人的なる存在

【前書き】

この劇が追求しているのは一つの好奇心だ。それは、

「この先、一体どうなっちゃうんだらう?」

という非情にシンプルな形式で表明される。

5年後、10年後、100年後、そして1万年後。

一体、どうなってしまうんだらう?」

僕はそのことを書こうと思う。

【前提】

舞台の色は白。

いわゆる盛り上がる音楽ではないが、強いエネルギーを持った音楽が劇場を満たしている。

観客への諸注意のメッセージは、音声ではなく視覚的な効果をメインにしたものでありたい。

【1部】 さよなら人類

【1・1】 蒸発

蒸発 … オープニング

音響：客入れ音楽。

照明が一点に集まっていくって、星のように見え、やがて消える。

その光が完全に消え去ってしまう前に、方々から俳優が現れる。

複数の俳優による、ダンス。

一人一人、原子のように個別に踊っている俳優達はやがて分子のように集団として塊を作って動き出す。やがて運動の熱量は増加して、やがて爆発的な瞬間を迎えて集団はちりぢりになる。

蒸発 … 好奇心

天秤、登場。

天秤は客席にむけて、直接語り始める。そのトーンはあくまでも冷静で、ちよつと落語家がまへらをはるまへつに、日常の感覚から入っていく。

羽化は、天秤の背後にいたたずんでいる。一見気を抜いているようだが、その注意はほどよい緊張感で天秤に向けられており、二人の動きは時に同期し、時にズレ、大きな関連性を持つっていく。

天秤

今からするのは、私の友達が引越をした時のお話です。あの、「お話」をする時っていうのは、だいたいどんなお話でも、お話をすると、聞く人の両方になんか「好奇心」みたいなものがあると思うんですね。根っこに。

架空のお話だったら尚更で、なんだろう、身体が冴より大きくなっちゃったらどうしようとか、未来からやってきた少年が電話ボックスで気絶したらどうしようとか、あ、死んだおじいちゃんが生き返って厚生労働大臣に任命されたらどうしようとか…、さねえ。さねえですけど。そつじつのがあると思うんですよ。別に架空のお話じゃなくてもそつじつ好奇心っていうのは大事で、ちょっとほんとありえないんだけど聞いてよ、なににな

羽化

天秤

羽化

昨日あの後家に帰ったら、玄関で待ってたの、パヤシ！
うえー！… ねむ。

天秤　　でしょ？　とか。とか。友達同士の会話で、「いわ言ったらどんなリアクションしてくれるかなー、ていうのも好奇心のーっ。今からするお話はともシンプルな好奇心「この先、一体どうなっちゃうんだろっ？」から出てきます。

羽化　　5年後、10年後、100年後、そして1万年後。

天秤　　一体、どうなっちゃうんだろっ？

羽化　　5年後、10年後、100年後、そして1万年後。

天秤　　一体、どうなっちゃうんだ。

天秤羽化　　想像力。

天秤　　を働かせてーっ、やってみようかなって思っています。そうそう、あの、友達が引越した話なんですよ、その子はすごい遠くに引越しちゃったんですけど。もう全然気軽に行けるようになったじゃなくって。ものすごい遠くで……。このお話は、言ってみれば連続して起きた個人の蒸発に関するお話なんです。けどちょっと変わってるのは、普通、蒸発した人間ていつのはそう簡単には帰って来ないんですけど、このお話の場合は、いとも簡単に帰ってへる。まるで近所のどら猫みたいに、居なくなったかなあ、と思った頃にまた帰ってへる。

羽化　　猫が居なくなるって心配なんですけどね。家の近所にも猫がいるんですけど、オスで、あたしはあの「タビ」って名前をつけてまして、それでたまに餌とかあげてたんですけど、いなくなっちゃって、

天秤　　ドーナツ屋のアルバイト店員、羽化さんが、ある時、突然行方不明になります。

羽化　　はい！

天秤　　ドーナツ屋のアルバイト店員、羽化さん、

羽化　　はい！　羽に化ける、の「羽化」。

天秤　　は、今まで無断欠勤なんて一回もしてないで、真面目にドーナツを揚げてきたんですけど、突然、何の連絡もつかなくなっちゃって何時間かなくなる。おかげでピーク時にシフトインしていた同僚「天秤」が、はいー

自問自答する天秤は羽化に自分を呼ぶように目で訴える。

羽化　　ピーク時にシフトインしていた同僚、天秤さん、

天秤　　はい！　あの、てんひん座の「天秤」。

羽化　　が、それこそ猫の手も借りたい状態になっっている。

天秤　　只今、スーパーストリングがキャンペーンとなっております。よろしかったらいかがでしょうか？　あ、少々お待ちください、コーピーおかわりお願いします、ありがとうございます、ごさいました、只今お待ちいたしますのでおかけになってお待ちください、はい、はい、ませー！

羽化　　超人手不足のピークタイムが過ぎまして、ようやく2時間遅れのお昼休み、

天秤　　んだよこれ……

羽化　　に入った頃、いなくなっていた彼女がふらりと職場に現れる。お疲れ様です。

天秤 あ、おつかれー。ていつか、え？ ていつか、え？
羽化 ん、何？
天秤 いやいや、どつしたの急になくなって。ずっと連絡付かないし、
羽化 あ、そうなんだ。
天秤 うん。そうなんだ、よ、あんたがね？ や、いんだけど、あ、なんか体調とか大丈夫？
羽化 さあ……
天秤 さあ……。彼女はものすごい簡単な質問にも答えられない状態なんですわ。って、
え、何してたの？ え、何？
羽化 何だろう……。何してたんだらうね。
天秤 いやいやちゃんと言おうよ。ていう質問にも答えられない状態で、拳句の果てには、
羽化 あ、わー、こんな顔だったね。
天秤 はあ？
羽化 うんうん。そうだ。この顔・うわー天秤この顔だ。
天秤 ……なんかムカつくんだけど。
羽化 なんで今まで思い出せなかったんだらう？
天秤 なんて言い出す始末。ね、どいつだったわけあんた？
羽化 ぐじ……？ ぐじ……？ ぐじ……？
天秤 彼女がどこに行ったたのか？ その答えを私が知ったのはずっとずっと後になってからのことなんですけど、ちょっと先回りしてお話するんですわ、彼女は

蒸発 ：帳尻あわせ

先回りマン、登場。とていつかもひすて出てくる。
彼のセリフ中に、新月、挨拶、沈黙がつぎつぎに登場する。

先回り 彼女は別のブレーンに行っていたんです。
天秤 先回りマン……？
先回り そう、これはただのサボタージュじゃありません。ブレーン・トリップです。トリップした人間はあちらのブレーンに行っている間、こちらのブレーンがどんな場所だったか思い出すことさえ出来ませぬ。
天秤 ブレーン・トリップで何？
先回り 知らない宇宙にお引越。
天秤 知らない宇宙にお引越？
先回り この出来事が世界でたった一人、ドーナツ屋のアルバイト店員、羽化さん、にだけ起きたのであれば「遅刻の下手な言い訳」。それで済んだのかもしれないけど、
新月 だけど実際はそうじゃなかったんです、
沈黙 段々、そういった蒸発事件が世界中で起きてるってことがわかってきて、
挨拶 精神科のお医者さんのところに行ったんですけど、全然、解決できなくて、

沈黙
新月
先回り
帳尻
それで、警察、公安、探偵、自衛隊、つてたらい回しみたくされちゃって、
占い師とか霊媒師とか、そういう怪しいもんを経て、最終的には、
物理学者のところに持ち込まれました。
はい！

帳尻、登場。帳尻は車椅子に乗っている。

天秤
物理学者の、

帳尻
はい。

天秤
帳尻さんですー！

帳尻
目の前にいる人間が突然、ポッと消えてなくなったらどうする？ びっくりすんでしょ？ しかも何日かしたら、消滅した人間がポッとまた戻って来るっつうんだから二度びっくりだ。ブーン・トリップのは要するにそういうこと。

天秤
んん？

帳尻
はい、どうも、帳尻です。帳尻合わせの「帳尻」。僭越ながらフタクシは坐ったままでお話させていただきますが皆様は立てオラアッ！ 立てよー。ってなんだもっ、みんな立ってんじゃん、言っつうよね。

天秤、羽化不信感を込めて内緒話のようなことをする。

帳尻
ま、急に言われてドンと来ることはおかじゃないとは思っただけびつりあえず「へー」と思っつ聞いちゃう。

天秤羽化
へー

帳尻
時は2008年9月10日。

新月
所は？

帳尻
スイスのジュネーブ、で開発が進められてた大型ハドロン衝突型加速器、

新月
Large Hadron Collider

帳尻
通称LHCっつ奴なんだわよ、2008年9月10日、そいつが正式に動き出したのね。LHCてのはかなり以前から物理学者達の注目の的で、2008年は世界中の物理学者がこいつの実験報告を待ってたっつわけ。そっつ2013年10月22日。稼動から5年後ね。こっつで大発見があったわけ。

天秤
大発見？

帳尻
初めて、人工のブラックホールが観測されたの。これは超小型のやつで、マイクロブラックホールでんだけとさ、めっちゃめっちゃ大発見だったわけよ。だつてまあ、作っちゃったわけだからさ、ブラックホールを。ヤバイでしょ？

天秤羽化
ヤバイヤバイ。

帳尻
で、もう、すっげえ盛り上がったわけだ業界全体が。

天秤
業界？

羽化 全体？

天秤 業界？

帳尻 物理業界的にはマイクロブラックホールの誕生というのは「異次元空間」の存在が証明された、て意味なのね。マイクロブラックホールの発見以前は「異次元とかあるわけねえだろ的」な、そういう学者もまだいたのよ。いたの。だけど、ここからもう180度変わって、「異次元とかないわけねえだろ的」な流れが、も、完全にメインになったわけ。それでこの時、すげえ流行った言葉があっただけ、

新月 「もはや宇宙は1つではなご」
つて奴。

天秤 「もはや宇宙は1つではなご」

羽化 「もはや宇宙は1つではなご」

帳尻 うるさい、聞いて。肝心なのは、この辺りからブレインについてこの研究がいよいよ本格的に始まったってことよ。ブレイン宇宙についての考えがなげなげ、ブレイン・トリップのことはわからなご。

天秤 ブレインてのは、何、脳みそ？

新月 いえ、頭脳の方のBrainはめいませよ。細胞膜のほうのMembraneは。

天秤 細胞膜？

新月 ある領域の内と外とを隔てる「境目」のことね。だからこのあえず、ブレインてのはこの宇宙を包み込んでる膜なんだと思っごよ。

羽化 ブレイン…

帳尻 そうそう、それでね、この事件に対して俺なんかは、理論を構築して来たんだけど、現場で具体的なリアクションを起こした奴ってのもいて、それが。

新月 はい！

帳尻 同じく物理学者の、新月。

新月 はい！ 新しい月で「新月」。

帳尻 この人は俺の嫁さんです。

新月 元ね

帳尻 そう嫁さんだった人。以前はもう、職場では机を並べ、家庭では枕を並べてた。みたいな。でも、最近じゃ机、机、机、ばっか並べてちゃってお互いにとって哀しい時間が流れてくるよね？

新月 あんたにとっごでしょ。理論はともかく、現実問題として誰かがこの現象に対処していく必要があったわけで、だから私達はまずは情報収集ってことで、実際にトリップを体験している人ご、

複数 はい！

新月 その瞬間を目撃した人間、

珊瑚日食 はい！

新月 に、あれこれ事情を聞いてきたわけです。実際に現場を目撃した人間、珊瑚と
珊瑚 はい

羽化 たけどその分ちよっとだけ時給はいいよ、みたいな。
天稗 ま、それもあって働いてたんですけど、
羽化 でもまあ……、
天稗 辞めちゃうんだ？
羽化 うん
天稗 え、それってもしかして、辞めさせられた、的な？
羽化 いや、うーん、そういうことになんのかなあ……
天稗 そのあたりは店長と羽化ちゃんの話だもんね。ま・でも、すごい羽化ちゃん欠勤多くな
つちゃったから、流れるにはそりゃ辞めるよねえ、みたいな感じもあって、えー、そ
れどどいつさなの？ どいつさなの？
羽化 引越す
天稗 引越すって？ どいつに？
羽化 知らない宇宙にお引越。

二人、歩き出す。

天稗 何言ってるんだお前、と思ったんですけど、この時は羽化ちゃんの発言は流しまして、あ、
へえ、遠いね。知らない宇宙じゃね。「ジャージでいっか」てわけにはいかないね。
羽化 そうなんだよね。てわけだから、バイバイさよならまたいつか。
天稗 今までほんとうに。
羽化 あたし、手紙を書くよ。
天稗 うん。メールしろ。
羽化 じゃあ、また。
天稗 じゃあ、また。なあんて言ってお別れしたんです。それが引越の3日前。あたし一回だ
けあの子の家に遊びに行ったことあるんですけど、物持ちっていつか、とにかく物が多
くって……

蒸発 ……ミッドナイト

一人暮らしの女の引越し風景。あちこち荷物を運び出している引越し屋連中。
一人の男（日食）が他の作業員に指示を出している。
その様子を部屋の主（羽化）が眺めている。

羽化 あ、それは運ばないんです。もう使わないので。あー、そっちもいいです。
日食 え、そうですか？ これスニですか？
羽化 はい。捨てる。
射的 はい。
日食 これも、これもスニですかよね？

天秤 想像力！ の限界に挑む感じで一つ、羽化ちゃん達の引越した「知らない宇宙」について考えてみようと思います。5年後、10年後、100年後、そして1万年後まで！

射的 ちよっと大丈夫ですか？ か、か、か、
羽化 わ、わ、わ、わ、

と、羽化が突然光り出す。そして、引越し屋たちの目の前から消えていなくなる。複数の俳優が登場し、それぞれの手に大きささまざまなボールを持って踊る。この時に射的も一緒に居なくなる。
ブレン・トリップのダンス。

【1・2】 射的

射的 …事情聴取

引越の風景から一転して、静かな場所。

糸口、新月、登場。彼らの研究室。

射的 どう？… っついわれても別にどうってこともないですよ。その後はだからちゃんと仕事
っついで、普通に引越をね、あの、やったんですけど。

新月 トリップのご経験は、その一回だけですか？ 羽化さんと一緒に行った。

射的 いや、あの後は一人でもちよくちよく起きるようになっちゃいまして、

新月 一人でも

射的 あの、これは、一回なった人は結構何回もなっちゃうもんなんですか？

糸口 みたいですね。

射的 なにか止める方法みたいなものは？

糸口 難しいですね。正直な話、トリップしたときり帰ってこなくなっちゃった人っていうのは、海外とかには結構いるらしいんですけど、

射的 いや、これで現場をね、何回か飛ばしちゃいますしっつ、大分信用に関わるっつつか
ですね、まっすいっすよね、仕事柄。

糸口 そうですね。ええ。

新月 射的さんがトリップで飛ばされてくるのは、どんな場所ですか？

射的 どんなですか？ どんな？… どんな……？

間。

射的 「音」がなかったと思います。

新月 「音」がない？

射的 はい。自分の声とかも命めて何にも聞かえないんです。ただ、深呼吸はできました。で、僕が呼吸する大気が存在しているっていうことは、そこにも音が存在しているはずですから……。そこで無くなっているのは「音」じゃなくて僕の鼓膜なのかもしれない。

射的 が帰り支度を始め、今まで会話をしていた場が崩れる。

照明：ここからゆっくりと変化し始める。

糸口 射的さんはいつから引越屋やってるんですか？

射的 だいたい1年ぐらいですか。

新月 それ以前は何を？

射的 多分、お二人と似たようなことを。

糸口 ああ……。医者ですか？

射的 っ、お二人は医者なんですか？

糸口、一瞬新月を見る。二人、ほんの一瞬だけ顔を見合わせる。

糸口 いや、専門は物理です。

射的 僕もです。

新月 すみません、別に隠すつもりじゃなかったんですけど、

射的 いやいや。医者の方が話が早いですからね。じゃ来週の水曜日、でしたっけ、ガイダン

ス？

新月 ええ。結構、本格的なものになると思いますわ。

糸口 離脱者の方と、研究者と、ね。

射的 ええ

新月 ぜひ。

射的 時間が合えば。

新月 それじゃあそんな時に。

射的 歩き出す。

新月と糸口がはける。

射的 ……引越屋談義

日食、珊瑚、登場。

射的が一人で歩きながら話しているところから途中から日食と珊瑚が合流する。場所はいつしか引越屋の事務所となる。

射的 この時初めて、研究者の、方のところに向ったんですね。最初はあの、虫歯じゃないですけど、ほら、絶対虫歯だかってわかっても歯医者行かないみたいな、あるじゃないですか？ そういうのがあったんですけど、「こん時に行ってみて、そんな簡単に解決する問題じゃないな、こいつのがわかって、だからこのまま仕事を続けていっても、その、「迷惑をおかけするだけかなあ、こつのはありますんで、まあそういう結論を急がなくてもね。」

射的 いやでも、まともに勤務できませんしね。

日食 だけと君、わざとやっているわけじゃないんでしょ？

射的 わざと消えられるわけじゃないんですから……。

日食 普通はね、わざとだろつがなからつが消えられないんだよ。

射的 それだ。

日食 他にもあれなの、結構そういう人たちはなに、その、消えるのは流行っているの？

射的 流行って、るんじゃないですかね。

日食 時代だね。

珊瑚 はい。……や、時代なんですかね。

日食 時代だよ。ねえ？

射的 はい。

日食 そりゃそうだよ。昔はなかったんだからそんなこと。

珊瑚 うーん……

射的 社長にはもう、月末までこつこつで話してきましたんで、

珊瑚 ええ、ウン。

日食 今までではそれでちよいちよやってきたわけじゃない。

珊瑚 そうだよ。

射的 や、こつこつ人間はあんまり社会的には役に立たないんじゃないかと……。

日食 そりゃね。そりゃ突然消えちゃう奴よりは、突然消えちゃう奴の方が会社的には都合いいよ、だげと会社ってのはさ、みんながみんな役立つ人間ばかりじゃなくてもやつらけるやつらに出来るんだよちゃんど。ね？

珊瑚 え、それって、私のこつこつですか？

日食 そうじゃなくしたから……。汲せつ。

射的 まあ、それでも、辞めますよ、やつらほら。

珊瑚 シャテキン……

日食 食ってけんの？

射的 行けないですね。

日食 ダメじゃな。

射的 はい。

無言。

日食　じゃ社員は辞めるっていいからわ。バイトってちょいちょい入るってのはいい？

珊瑚　あ、それナイスッす。

日食　なに？

珊瑚　ナイス、いいですね。

射的　いや、でもオ……

珊瑚　人数多い現場だったらい人べらい、ねえ。

日食　うん。途中で君、消えちゃっても回るように配置するから。

射的　はあ……。

珊瑚　あ、そつだシャテキンにこれ、

珊瑚、射的に何か贈り物を渡す。

射的　ん？　なに？

珊瑚　お守り、交通安全の。……交通、じゃないのかな。ごめんあんまよくわかんないんだ。

射的　ああ、いや、ありがとう。なんかすみません。こんな、応募してもらえるところかはちょっと意外でしたね。別にそんなに真面目に働いてたってわけでもなかったんで。日食さんとか全然、死ぬ、とか思いながら働いてたんで。だから俄然その、ガイダンスっていうのにも、ね、ちゃんと行こうっていつか。それは結構、僕だけじゃなくて、わりと真剣な、思いみたいのがあったんじゃないかな、って思いますね、他の参加者の人も。

複数　はい。

音響：曲in

【1・3】 原因追求

集会　：ブログ1（応募）

射的　ガイダンスの他の参加者の人、

複数　はい

複数の「ガイダンス参加者」が登場する。

羽化　他の参加者の内の一人をあたしはブログを読んで知ったんですけど、あの、トリップのことをブログに書いている人が居たんですね。

挨拶　はい

羽化　それが、挨拶。

挨拶　はい。はじめましておはようございます。はじめましては

羽化　こんなちは。
 挨拶　とかの「挨拶」。
 羽化　彼女のブログは
 挨拶　『はじめの「トバ」』
 羽化　っていうタイトルでして、その日24時間のうちで彼女が一番最初に口に出して喋った
 トバを淡々と書いていくっていうスタイルだったんですね。スタートが朝の6時にな
 ったんですね、たぶんね。
 挨拶　おはよう
 羽化　なんていう割としっかりした言葉の時もあれば、
 挨拶　へおおええー（寝ぼけ「トバ」）
 羽化　え、え？
 挨拶　へおおええー（寝ぼけ「トバ」）
 挨拶　へおおええー（寝ぼけ「トバ」）
 羽化　なんていう感じが言葉なの？　っていう感じの音で始めることも多かったんです
 けど、その日の「トバ」の「ト」の音がそのままだと書くと「トバ」ってのが結構バカらし
 くて。それでその日の「ト」の音が、
 挨拶　ただいま。
 羽化　ってなってますよ、
 挨拶　ただいま！　っていうのが本田の「はじめの「トバ」」。
 羽化　こんな時間に言っているとまるく朝帰りでもしたみたいなんですけど、ふっ、全然そんな楽し
 げなものじゃあねえんです。
 挨拶　ご無沙汰しております、挨拶です。
 更新、サボっていたわけではなくてですよ……。
 また例のお引越とかが、どこへやら、連れて行かれてるような状態であ
 るさきほど「うやむや、へ、へ」のちの世界に帰ってこれましたんで、さっきのはその、
 ただいま、
 だったんです。
 何をいってんだ「コイツは」とお思いになるかもしれませんがね。
 思いますよ、そりゃ思います。
 以前もトリップのことをこのブログに書き込んだんですけど、そしたら、
 でしたの大丈夫？　遂におかしくなっちゃった？
 みたいなコメントを一杯もらっちゃいました……。　（遂にうたないだらうー）。
 心配ご無用ですー。　きゅー
 や、ほんとにご無用なわけがどうかちよっと自信ないんだけど、それでも、
 誘拐とか監禁とか、そういう事件はいいことでは全然ないのです。
 なんていって、トバの「トバ」って？　とかっていう奴らって、いかに、何それ？　て感
 じ。
 ほんとうに、何を、何を感じ。

挨拶 どうやらこのどっかにいつかちょっと現象はあたしだけに起きてるんじゃないらしいとです
すね。

なんだかちょっとほっとした。

ちょっとがっかりしたけれど、やっぱりちょっとほっとした。

うんうん

羽化
挨拶 うんうん
っにしても！ うちの家族は本当に変！

愉快
愉快
はい

挨拶 うちの家族。お父さん、

愉快
愉快
はい

は、「愉快」という名前です。

愉快
挨拶 自分で言うのもどうなんだ、とびきり愉快なお父さん「愉快」(ちょっと)「笑点」(ぼく)。

続いてこっちが姉妹の、

はい。

白夜
挨拶 白夜です。

白夜
挨拶 眠らない、夜はない、そんなわけない、「白夜」(ちょっとラップぼく)。

姉です、一応。あたしが、二人の目の前で変なボールに飲み込まれたり吐き出されたり
しても、この二人と来たり、ぬうあっ！(軽く異次元球から飛び出る感じの声)。

挨拶、白夜、愉快の家庭の情景となる。

愉快
挨拶 ああ、おかえり。

ただいま。

愉快
挨拶 お前あの、免許の更新のハガキ来てたぞ、

とか！ ぬうあっ！

白夜
挨拶 ああ、あんたご飯は？ かぼちゃの煮たのだったら冷蔵庫入ってるけど。

ん、後でいいや、とかー 会社から帰ってきた時とリアクション一緒じゃん！ 二人に
合わせてあたしも平静を装っているけど、そろそろ会社クビなんじゃないかなあ……、
なんてホントはすっごく混乱してる。何をどうしたらああいう気持ちになれるのか知ん
ないけど、これは、ちよっぴ、おっぴいじだよね？

白夜
挨拶 ん、あたし？ 何が？

だから、もうちよっぴいっぴいしたっついでにさげなごう？ っし。

してんじやな、びっぴい。ね？

してるしてる。しかし、長かったな今回ね。

そかね？

だんだん長くなってる感じがなごうのか？

……かもね。

愉快
挨拶 とっついか、なごうね。

だよね、さっぴい。

白夜 ね、そっちはまだ、ご飯とかもいつくたの？
挨拶 え？

白夜 食べてんのちゃん？

挨拶 食べてないかな。

白夜 えー。お腹空いちやうじゃん。

挨拶 うん。

白夜 やー、しんどいね。ね？

愉快、うなづいてくる。

挨拶 なんか二人といるとさ、騒ぐ気なくす。

白夜 騒ぎなさいよ、あんたぐらいは。

愉快 これは大変なことだぞ？ わかっているのか？

挨拶 うん……

白夜 したら挨拶、お風呂入っちゃう？

挨拶 んー？ もうちよっつからいらいよ。

白夜 じゃあお父さん、先入る？

愉快 ん……んん。

挨拶 あたしもう寝るわ。

白夜 だったら先・入っちゃえばいいじゃんよ。

挨拶 朝まで寝るわけじゃないからさ、ちよこ口寝。

挨拶、席を立つつじする感じ。

愉快 ああ、挨拶。

挨拶 ん？

愉快 なんか、募集しているらしいぞお前みたいな「ブレイン・トリップ」する……。

挨拶 募集って？

愉快 人にこう、呼びかけてだな、集まれ、ついでに、

挨拶 なにそれ？ え、募集してどうするの？

愉快 だから研究するんじゃないの？

挨拶 えー、やだ。

愉快 やだってお前……（あきれて）

挨拶 だって、え？ やだ。

愉快 やだってお前……（あきれて）

挨拶 普通に考えたら研究とかされたくないでしょ？

白夜 ま、そっだけじゃ。

愉快 困ってんだろ、お前だつて。

挨拶 え、ねえ、それって誰が研究してくれるの？ お医者さん？
白夜 いや、なんていったかな、物理学者？
愉快 理論物理学者。

音響：曲。

理論物理学者達、登場。

挨拶の家庭の「場」が、彼らの登場によって「ガイダンス」の場に段々と移り変わっていく。

理屈糸口新月 はい。

羽化 理論物理学者！

理屈糸口新月 はい。

羽化 の、みなさんです。ガイダンスにはメイン司会を担当している人がいたんですけど、それが

理屈 はい。

羽化 この人、理屈さん。

理屈 はい。「だから君のこの話は理屈さん」の「理」。[理]。
挨拶 行きたくないなあ。

てのが本音ではありますが、そこはわかりもいってられませんからね。
いっちょ気合入れて行って来ます！

羽化 がんばろ。

挨拶 終わったらまたブログで詳しく報告しますね。

うー、うーなっちゃだひひ。

集会 …ガイダンス（バルクー）

照明変化がここまで終了する。

ガイダンスの場となる。
とある会議室。

理屈 のつけに結論を申しあげます。このシッポの際、皆さんが辿り着くところのは、これは別の宇宙です。ま、ゆるい話していきましょ。おかけください。みなさんは「ブレーション宇宙論」の話を聞いたことがありますか？ 我々の知っている宇宙は宇宙の全体ではなく、そのスライスにすぎない、という考えです。「おははは……スライスするのは何、切れ端へのこの意味だと思っちゃいいんですか？

理屈 はい？

沈黙 はい？

理屈 はい？

沈黙 あ、まづかったですか？

理屈
とんでもない。全然間違っていないですよ「切れ端」。そうですね、宇宙はいついしもの切れ端があって、我々はそれをブレーションと呼んでいます。

沈黙
はあ

理屈
仮に今、この部屋全部をですね、宇宙全体バ・ル・クだと考えてください。

沈黙
バ・ル・ク？

理屈
はい。バ・ル・クというのは4次元以上の空間をすべて含んだ宇宙全体のことです。

愉快
4次元てのはその、ちょっと待ってください、4次元ですか……それはあの……。

糸口
（小難しい話になっちゃいますが）トリップという現象は謎だらけなんです……。

愉快
ええ、まあ……。

理屈
よろしいですか？

新月
ブレーション宇宙論では、今まで我々が宇宙全体だと思ってきたものをブレーションという「部分」として考えます。

糸口
それじゃ、今からこれをブレーションと呼びます。呼びましょう。呼びませいください。呼んでもよろしいでしょうか。

理屈
我々はこんな風にひとつのブレーションに住んでいます。しかし宇宙全体には、ひとつではなく、複数のブレーションが存在しているんです。ちよびん、こんなふうにあんなふうにしてんなふうだ。トリップの際みなさんは、「このブレーション」を離れて「あのブレーション」に向けて、何からの方法で飛ばされてしまっているんです。

無言。

白夜
はあそひですか、納得するのは、びつ飛んだ話だね。

射的
んーなんか大分めっちゃくちゃな話に聞えるんですけど……

理屈
はい、ちよびん。

射的
何らかのカタチってのは……？ 瞬間移動でもしているんですか？

糸口
瞬間移動ってわけじゃないんですが、

射的
だいたいね、人間みたいな巨大な素粒子の塊が、量子情報を保存したまんま別ブレーションへ移動するなんてナンセンスでしょ？ トンネル効果じゃあるまいし。な、な……

白夜
（じつさに話を合わせて）そうですね。トンネルじゃないんですから……。

射的
聞いてなかったでしょ。

理屈
我々が考えているのは、ひとつのブレーションです。何らかの形でブレーションとブレーションが接触しているのではなから、じ。

射的
接触……？

糸口
こうなっていればバルクを通らなくても、直接、別のブレーションに移動するんじゃないかなって思います。

射的
んー……まあね……

沈黙
バルクを通っちゃまずいわけ？ さっきめっちゃ通ってました。

理屈 だからそれは例えの話。あなたが「1」でジャンプしても地球を飛び出したりしないよ
うに、普通はブレーションから出られないように出来てるんです。
帳尻 だけども、あー、ちょっといい？
理屈 いいね。

帳尻、はじめての発言で少し全体から見えやすい位置に移動する。

帳尻 あ、どうも研究者の帳尻です。んーと、ブレーションとブレーションが接触してるってた
けどさ、衝突の際に生じるエネルギーは莫大だよ？ それがきっかけになって宇宙その

ものが産まれたって説もあるへんからだからね

射的 エキピロティック宇宙論？ あれは単なる仮説じゃないんですか？

帳尻 や、そうなんだけども、

射的 ビッグバンが起きる可能性を否定できない、ってその程度の話ですよ。

帳尻 だけど別のブレーションに渡って行くってモデルも、大分怪しいんじゃないかって。

愉快 え？ あのー、ブレーションとブレーションがぶつかると、なに………、ビックバンが起きちゃう
わけ？

理屈 そういつ説もあるってだけです。

愉快 はあ、ビックバンまで話が来ましたか。

白夜 1つじゃ一本取られたね。

帳尻 あ、ちょっと話は変わりますがもう一回。

新月 はい。

帳尻 あ、羽化さんて人がいるんだけどね、1つはあの、世界でも5番目くらい早いトロッ
プを始めたんじゃないかって言わわって、

新月 居ますね。わー。

帳尻 彼女は現在32回目のトロップに出ています。わ、なーとね、俺の計算じゃね、もう1回
1回帰ってしまえば今はもうすぐ帰るはず、まぢゅってロスタイムみたいなんだよ、多分もう
少したら帰ってくると思います。

理屈 1回1回？

帳尻 はい。1回1回。わすたさ、帰って来たら仲良しってやつってこと。すみませと、そとじ
ゃ続きをよんでね。

集会 : ガイダンス (異次元球)

理屈 我々は一通り話しましたので、それじゃあ、みなさん、おかけなせよ。1質問などあれ
ば、よんでね。

射的 またぢゅって根本的な疑問はありますか、
理屈 はい。

射的
そもそも何を根拠に別のブレンへの移動なんて、そんなぶっ飛んだ話が出てきたんですか？

理屈
おお、それじゃそもそも話しときましようか。
根拠の一つは、トリップの直前に現れるボールです。

新月
愉快
ああ、ボール出るね。
ね。なんなのあれ？

新月
愉快
私達はあれを異次元球と呼んでいます。それじゃあ異次元球てのは何なのか？ ……異次元から来た、ボールです！
おおお、今のはわかった！

白夜
愉快
異次元から来た！
わかんないわかんない。

新月
愉快
異次元球ていうのは、別のブレンから来たお客さんなんです。
ごめなさいあの、え？ 次元、ていうのは、なんでしたっけ？

糸口
愉快
えー、ざっくり言っちゃえばモノサシってことです。
モノサシ？

糸口
愉快
この空間ていうのは、縦、横、高さ、3つのモノサシで出来てるでしょ？ だから「3次元なんです。4次元になったらモノサシがもう一つ増える。例えばムカ、ムカサみたいな。

理屈
愉快
ムカサみたいな。
ムカサはどこにあるんです？

糸口
愉快
ムカサは喻えの話です。だけど、ひょっとするとムカサはこのブレンのすぐ隣にあって、私達がそれに気づいていないだけなのかもしれません。

愉快
糸口
すぐ隣にあったら気づくだろうがよ。何いってんだおめえはよお。
それが気づけないってこともあるんです。お父さんちょっと落ち着いて。

愉快
糸口
すみません……
まあね、私達が3次元で暮らしてる限り次元のことはパチッと理解できないの。

愉快
糸口
一般化すると、3次元に生きる生物には4次元は理解できないってことなんだけども待って、エヌとかは止めて。それはちょっとホントに止めて

愉快
糸口
(糸口に) お前、キレるな。
お父さん(ちょっとやめてよ)。

新月
愉快
いいですか？ 私達の住んでいるブレンはたまたま空間が3次元で出来てますが、別のブレンでは4次元だったり、あるいは、2次元、1次元ってこともあるんです。

新月
愉快
んで、おそらく羽化ちゃんは現在、2次元ブレンに飛ばされているね。
ちよっと黙って。

新月
愉快
いや、ホントのじつはしよだった。
いいからお静かにお願いします。

新月
愉快
はいはい。

新月、気を取り直して、

挨拶

えーと、要はぐるぐるブレンダーがあるってことですか？

新月

そうですね。つまりブレンダーには、個性があるんです。いろいろですか？ 料理機一枚の紙があります。さっき羽化さんが二次元のブレンダーにトリップしていろいろ話がありましたけど。それはちゅーん、二の中閉じ込められてぐるみみたいな状態なんです。

It, s a flat world. <ター>って平面の世界じゃ。

沈黙

平面の世界……？

新月

flat worldに住んでる生物は「高知」としてものを理解するってのができません。いろいろあか？

音響：曲……

舞台の別の場所、平面の板を持った「紙」と、ボールを持った「球」が登場する。

教育番組風のバカにしたようなわかりやすさ。

紙

田べっしょねは？

球

違うんだよ、田じゃなくて球。なんかこう、まるごとして、きゅーとしたカーブを

描いて

だからねは田べっしょん

違うっての

田べっしょん。

紙

よし、じゃ、今からそっちのブレンダーに俺、突入するからよ。よく見て。おおおおお

球

お

紙

むむむおおおおああっ……

無言。

わかった？ わかった？

うんうん。

ねえ、どんなだった。俺、どんなだった？

あのね、なんかね、ちっちゃい丸が出てきてね、お、でっかくなっただっかくなっただ。

あ、ちっちゃくなっただ、ちっちゃくなっただ。あ、ああ……無くなっただ……。て感

じ？ わかったよ。円が沢山あるのが球なんだな。

バカかお前は。

チャンチャン。

球

二人

照明：変化。

新月　と、ごうごうですね、はい、後悔するならやらなさい。
二人　……（はら）

愉快　脱ぐ意味はあったんですか？

新月　ごうごうにFlat worldの住人は「ボール」の形を「田」とごうごう平面でしか把握できないんです。

沈黙　「次元に生きる生物には」+1次元は理解できない……。

新月　だから私達の住んでいる3次元に、4次元のボールが持ちこまれたとしても3次元的にか見えてこないんです。もしもですよ、

沈黙　はい

新月　もしもさっきと同様に、3次元空間に4次元のボールが持ち込まれたとしたら、何が見えてくると思います？

沈黙　……目の前にふっと小さなボールが現れて、お、でっかくなったでっかくなった。あ、ちっちゃくなった、ちっちゃくなった。あ、ああ……無くなった……。て感じ？
トリップの直前に俺らが見てるボールはそれだよ。

新月　そうごうごうです。

理屈　しかしまあ白状するんですね、この仮説が真実である可能性はせいぜい2割。我々にとってはその程度の認識に過ぎません。

沈黙　なんだそりゃ

糸口　それでも、今のところ我々が考える最も信憑性の高い仮説です。

理屈　みなさんが宗教やまじないに解決を求めようとするのは自由です。ただ、トリップはなくなりません。ですからごうごうにかして、この現象を理解するために、みなさんのご協力を願っていたんです。

挨拶　あの、理解もまあ大事なんでしょうけど、トリップは、ごうごうやらなくなるとは、ごうごうか？

理屈　まあ……。

挨拶　それがわかんなきゃしょうがないじゃないですか

愉快　ほんとだよ。

白夜　何なの結局。

新月　だからその辺りを調査するためにも、ご協力を願っていたんです。

理屈　そうごうごうです。

帳尻　あとさ、いや、これまだ推測の域を出ないことなただけじゃ、トリップの時間についてはだんだん長くなっている傾向があるみたいなんですわ。ごうごうはだよ、そのうち一生帰って来れないような長い長いトリップが発生する可能性もあるってことなんです。だから……

沈黙　いつ？　いつごろなるんですか？

理屈　それもデータがなければ話にならないんです。

帳尻　そういつもんがあれば、次のトリップのタイムミングを計算で出すのも不可能じゃないってごうごう。

愉快　しかしねえ、あなた、一生帰って来られないようになって、あなた、そういう言い方は無責任ですよ。そりゃ学術先生にとってはいいかもしれないですけどね、そんな無神経ないわれかたしたらもうね、当事者はもう、カッチーンと来ますよ、それは。

帳尻　ちなみに俺も離脱者の一人なんです、お父さん、他人事ひたしごとで言っているわけじゃないんです。

愉快　君、本人がか？

帳尻　ええ。

帳尻、ちょっと車椅子で移動する。改めて得意げに振り返り、

帳尻　他人事でいつてるわけじゃ……

愉快　わかったよ

と、突然、羽化登場。

羽化が指揮者のように手を振りかざすと、全員で向きを変えてストップモーション。その凍りついた時間の中で羽化、

羽化　あたしがトリップから帰ってきたのは、ほんとに会議の終わる直前だったみたいなんです。ギリギリセーフというか、むしろクワイマックス飾るにふさわしい最高のタイミングというか。異次元球からあたしが吐き出される絵、というのはなかなか強烈だったみたいで、あたし、満場の拍手で迎えられたんです。

会場の拍手。ストップが解けて、皆、動き出す。

帳尻　ご紹介します。さきほどお話したベテラン離脱者の、

羽化　あ、羽化です。どうぞよろしく。

挨拶　「なんだあー？」

羽化　後日、挨拶のブログには、

挨拶　「なんだあー？」

羽化　ていつタイトルのエントリーが。

再び挨拶のブログの場へ。

集会　：ブログ2 (断絶)

挨拶　今日の一言目は驚きのコトバ。

いやー、行ってききましたよー、ガイダンス！ もう、びっくりにちゃいました！

ガイドダンスの最後で、羽化ちゃんていう「ベニフラン離脱者」の子がトリップから還って来たんですけど、あたし、人がトリップする瞬間なんて初めて見ました！

光の球体から抜け出してへる羽化ちゃんは、

何だが、宇宙から直接産まれて来たみたいにも見えて、夢に出てきそう、っていつか先程、出てきちゃいましたのよ実際。

さてさて！ その羽化ちゃんなんですけど、

オフィシャルなガイドダンスが終わった後、いろいろとお話しさせてもらいました、

羽化
挨拶
どうもー

はじめまして、挨拶です。

羽化
挨拶
羽化っす。

挨拶
気さくな方でしたー！ 年も同じくらいだし、っつてっつてお友達になっつて、今までなんとなくで思ってたけどこの確認とかをっつろっつろ取らせてもらったり、

羽化
挨拶
待って待って、あなたが挨拶？ あの？

挨拶
え、あ、はい？

羽化
挨拶
とびきり愉快なお父さんがいる？

挨拶
あ、はい。あたしです。

羽化
挨拶
いやー、見えます、ブログ。

羽化、握手を求めぬ。

挨拶
ゲ、マジですか、なんかお恥ずかしい。とびきり愉快なお父さんと、さっきっつしよに来
てましたけど、

羽化
挨拶
あ、見たい見たい

挨拶
いや、見るほどのものじゃ……

愉快
呼ばれました、じゃ？

羽化
挨拶
ああー！ お父さん？ お父さん？

挨拶
お父さん(すす)。

羽化
挨拶
お父さん

白夜
挨拶
何いっつたの。

挨拶
っつて感じでほんとはっつくりしちゃいましたー！

白夜
挨拶
でもあれでっつ、羽化ちゃん。30回回ってもっつてっつてっつ……

羽化
挨拶
32回。

白夜
挨拶
いやー(大変ですなあ)

愉快
っつ苦勞なっつ

羽化
挨拶
ホントですよー！

白夜

それでも、ごうやっつね、いじけてないからまたね。

愉快

そうだね。ウチのこいつなんてもういじけて、いじけて……

挨拶

うるさいなあ、

羽化

ま、何も考えてないだけですけれど、

愉快

何も考えてない、それが立派なことなんですよ。

白夜

無我？

愉快

忘我といいますかね……

羽化

ボーガン？

挨拶

いいからもう帰ってよー！……すみませんほんとに

羽化

楽しいご家族で

挨拶

確かに、羽化ちゃんはずいぶんばばじつたから、いっぱい元気をもらえたんですけど、

不思議な気持ちにもなりました。

だってだって、トリップなんて絶対いいもんじゃないのに……。

そう、このブログも始めてからせっかく毎日更新してきたのに、

すっかり途切れ途切れになっちゃったし。

これが一番のストレスかもしれないな……

何年もずっと続けてきたことが途絶えてしまうのは嫌。

お気に入りのカフェが閉じてしまったりとか、手をつないでた人がいなくなってしまうたりとか、そんなあれこれにお構いなく進んで行くすべてが嫌。

こんな風にして私は「何かを続けていく力」を少しづつ亡くしていくのかもしれない。残念。

スポーツ選手とか音楽家を見ると、いいなあ、って思います。

ちっちゃな頃からずっとずっと続けて来ていることがあっていいなあ、って。

私にも何かそういうことがあったら、

もう少し「続いていく自分」を実感できるのかもしれない。

なんだかあたしは途切れ途切れだ。

いったん途切れちゃったことって、ほどほどの距離が保てなくなったりしませんか？

私はそうなんです。

あのお店が無くなってからはカフェなんてどこにも行かなくなっちゃったし、

ピアノには、もう何年も触れてません。

音響 ……ピアノの鍵盤を一つ爪弾くような音がする。

その音に反応して挨拶が動く。

挨拶

続いてきた時間がみんな嘘だったみたいだ、

うんと遠くに離れちゃってます。

みなさんは、続けてきたことって何かありますか？

私は本当に何にもないんです。

寝ることと、食べること、あとは家族と話すことくらいかなあ……。

私の時間はたーだ、なんとなく続いて来ただけで、

私の力で続けて来たことなんてまるで何にもないみたい。

まじっ。

羽化
挨拶

何にもないみたい。なーんて、書いてるとまた「おかしくなった」っていわれちゃいますね。うあー、久しぶりだったんで、ついダラダラと語ってしまいました。ぷ。

とっぴあえず、元気ですよー挨拶はー！

挨拶、はげ。

【2部】わよなら地球

【2・1】 以後

屋上 ・無糖ブラック

羽化 ガイダンスの後は、ある意味研究者さんたちの思惑どおりっていつか、結構な数の離脱者が研究に参加することになったんですね。で、あたしも挨拶以外に何人か知り合いみたいのが出来たんですけど、

沈黙 はい。

羽化 その内の一人が学生の彼、沈黙。

沈黙 はい。答えが返ってこないこと「沈黙」。

羽化 第一印象は、「名前の割にはよく喋る」。本人は話好きみたいな感じだったんですけど、あたしはあんまりしゃべらないようにしてたんですね。っていうのは、なんかいつも女の人と一緒に来てたからなんですけど、

水飴 はい

羽化 一緒に来てた女の人、水飴。

水飴 はい。あのこないだお店で「伸びない水飴」っていうのを見かけまして、え？「伸びない水飴」？て、それ、は、ただの飴じゃん、て思ったんですけど、あれ待って？ 伸びるのが水飴？ でも水って、伸びないよね？ じゃあ？ ん？ ……なんて、ちょっと悩んじゃった私、「水飴」。

羽化 ふっん

羽化、はける。水飴もいったんはける。

沈黙 研究に参加することになったって言うっても入院みたいなことをするわけじゃないんです。ちよくちよく研究者さんのところに行ってトリップの詳細を報告したり、あとはなんかへんな部屋に閉じ込められたり、あれはだから、ごめんなさいね。いや、嚴重な部屋もないなと一回隔離されたことがあります。遮断室ね。あれは、まあ、失敗だったね。いいんですけど、

理屈 どうかに隠れとけばトリップから身を守るんじゃないのか、っていう単純な発想だったんですけど、

糸口 あっさりだったねえ。
理屈 ダメだったな

沈黙
それでも、まあ、離脱者同士の横の繋がりがあっていつか、「場」が出来たのは嬉しかったですね。じゃないですか？

射的
は？ ああ、まあ、そうなんじゃないですか。

以下、糸口のセリフは下奥のソファーに腰掛けて、実際に台本を手にして、朗読スタイル。

糸口
研究室のある建物の屋上。

理屈
射的が一人で佇んでいるところに沈黙が声をかける。

糸口
郊外の大学施設の一角を借りた研究室。

無造作に配置されたコンクリートの凹凸、白衣ばかり干してある物干し竿、汚れた貯水タンク、安い白ペンキの塗装が剥げかけた手すり、などが見える。

理屈
風が吹いていて、空が高い。

無言。理屈、糸口がはける。

水飴、登場。

水飴
ごめんごめん。遅くなっちゃって。

沈黙
あれ？

水飴
や、そこ無糖ブラックが売り切れだよ。

沈黙
なに、どこまでいったの？

水飴
で、別の自販探したんだけど全然無くて。買ってこなかった。

沈黙
ええ、別にブラックじゃなくても良かったのに……

水飴
あ、良かったの？ 先言っとしてよ。疲れた……。

沈黙
あ、そうだ、こちら射的さん。昔、研究者で、今、離脱者

射的
どうもオ。

水飴
あ、こんにちは。

沈黙
これあの、水飴つつって俺のあの……、

水飴
彼女です。

沈黙
はい。そう彼女です。

水飴
射的さんに質問なんですけど、

射的
え？ はい。なんですか？

水飴
ごっちゃって自分の恋人を紹介する時って射的さんならなんていいます？

射的
んー、

水飴
なんていいいます？ なんかほら、たまに結婚してもないのに、俺のヨメっす、みたいな

射的
ご言いつ人いるじゃないですか？ ごごごか、この人なんですけど、そわって……

射的
いってねえじゃん、だから最近は。

水飴
いーの、射的さんに聞いてんだから。

射的
僕はあの、あんま彼女とかってのがいたことないので紹介する場面がなかったですかね。

水飴　へー、そんなのですか？
沈黙　え、え、一回も、っつことはないでしょう？
射的　いや、一回も、ですわね。
水飴　うえー？　なんか、へー、そんなのですか？
射的　ええ。彼氏ならちよくちよく居ましたけど。

無言。

射的　あ、一応言っつて、冗談、ではなうです。

無言。

水飴　緊張感あふれるトークになってきましたね。
射的　そうですか？
沈黙　や、すみません……。
水飴　え？　ちなみに、射的さんが家に帰った時にですわね、裸でシーツに包まっていたら嬉しいのは私と彼だったらどっち？

射的、水飴を見て、沈黙を見る。

射的、沈黙と目が合って照れ笑い。

射的　そんなこと答えられないじゃないですか

はははは

バカな話してんじゃねえよ！

あ、ねえ、射的さんて研究者だったんですよね？

はい

じゃ、音と光って、どっちが速いか知ってます？

え？

そんなの、光でしょ（そんなべらい俺だってわかるよ）。

大正解。花火とか見ても先にパーって光ってそれからドーン、だから。

当たり前じゃん。

マッハ80万ですからね。

そつだよ、光はマッハ80万だよ？　え、あれ？　マッハ1が音速ですよね？　80万？

80万。

やばいすね、光。

ま、相当だよな。

ハイハイ、そんな光なんですわ、音より進むのが遅い場所があります。そつ、それは一体どつどつ？

射的 光が音より遅い場所なんでしょうよ。
沈黙 水の中とか？

水飴 ハイ、ブー。……降参？ いいですか？
沈黙 じゃどこなんだよ？

射的 正解は「頭の中」。脳みそん中では、光よりも音の方が早く処理されんたって。
水飴 へえ？

射的 意外じゃない？ だからここまでは光の早いんだけど、ここに入ったら一気に逆転を
水飴 物理法則が変わるわけですか。

射的 て考えると脳みその中は別の宇宙みたいに思えませんか？
水飴 なるほど。

沈黙 でも、んなこといたら、人間だってブレンになっちゃうじゃん。

水飴 そう、だから、ブレンとブレンが触れ合うと、ぽっ、って新しい宇宙が……
沈黙 おおお……！

射的 あれは単なる仮説ですって。
水飴 ビッグバーン！

沈黙 ビッグバーン！

射的 ちよつと置いていっつかねいっつかの感じ。

沈黙、それに気がしき、

沈黙 あの、すみません。あ、ガイダンスの時の話なんですけど、
射的 はいはい。

沈黙 あの、トリップがだんだん時間が長くなってって、最終的には帰っていらなくなるみたい
射的 たいな話してたじゃないですか？ アー聞くと……、っていつか驚かされますって
た？

射的 いやまあ段々長くなるものは、ものすごく長くなる可能性もあるんだらうな、って思っ
水飴 てましたね。そういう予感があったらどうよ？
沈黙 そうなの？

沈黙 わかんないですけど……。なんか、それって、死めのがタイミング的にベストなん
水飴 ですかね？

射的 え？ なんだよいついつい？ 死ぬって何それ？
沈黙 じゃめんど、ちよつと黙ってておせしめさるって？

水飴 なんだよ
沈黙 していつか回していつか待っていつか。あ、おぼこくかひかれっ？
水飴 なんだよ

沈黙 当事者同士で話したほうがいいが……おせしめさるますよな。

射的 いや別に強くは……。それに、何でも受け入れる派？ 「派」ではないね。単にそのままで悲観してないっただけで……。

屋上 ……当事者

羽化 こんにちは。

射的 あ、どうも、(む)話の方向を変えて(っ)っっっっっっっ、僕あの羽化さんと一緒にトリップしたことがあるんですけど一回、

沈黙 え、二人で、っっっっっっっ出来んすか？

羽化 あたしもあの一回だけなんですけど、なんか、二人で飛んじやったねえ？

射的 だからあれ以来、僕も、ちよくちよくトリップする体質になっちゃいまして

羽化 あらー。

射的 あらーですね。

羽化 で何、あたした、すみません。と謝ってくれと？

射的 いやそんなことば……。。

沈黙 あ、羽化さん、ですよ。沈黙です。

羽化 こんにちは。「さん」とかつけなくていいよ別に。そんな大層なもんじゃありませんので。

沈黙 そうすか

羽化 な、引越屋。

沈黙 あ、彼女の氷飴です。

羽化 あ・ど・じ・も。

水飴 (無言で会釈)。

射的 彼女は今、しゃべる事を禁止されています。

羽化 そういつプレイ？

射的 イエス。

沈黙 何いってんすか。

射的 それよりあの、

羽化 ん？

沈黙 羽化さんはあの後、誰かと一緒にトリップしたことであるんですか？

羽化 ないす。

射的 それはやってみてもダメだったってこと？ 試してない？

羽化 試してない、かな。

射的 そう……

沈黙 どうして？ だって、それがうまく行けば、誰かと一緒に行けるわけでしょう？

羽化 あ、沈黙的には誰かを連れて行きたい、と？

沈黙 はい、だって、たとえば1年とかになっちゃったら、暇だし、誰かと一緒の方が……

羽化 そう？

射的 え、次に、いつ飛ぶかとかってわかってるんですか？

羽化 うんうん

射的、考え込む。

沈黙 その後は？ 何万年もずっと違うブレインにいるわけ？

羽化 ある意味ラッキーだよね、そんな長生きできるんだったらぞ。

沈黙 全然ラッキーではねえだろ

羽化 でも、どうせそうなんだから、そう言うしかないじゃん。暗いね、沈黙は。

射的 どうにかむしろ、何でそんな明るく言えるわけ？

羽化 うん、なにそわわ？

射的 いやだっし、

羽化 なに、もっと女のチビて泣きながら言えよよかった？

射的 そうじゃなほほ……怖くなっただっし？

羽化 怖い？

射的 怖いでっし万年？ あね？ それは僕がそう思っただけ？

羽化 先のこと考えて怖くなのは別に「ト」関係ないでしょ？ 「将来への漠然とした不

安」じゃなほほ、ね、

射的 うーん、そういっつのはちゅっと思っただけ……

羽化 じゃ、あだてがそういっつのは平気なタイプなんじゃない？

羽化、席を立って、少し歩く。無言。

羽化 この前思ったんだけどあたしね、小さい頃になんか物語とか聞かされてる時あるじゃ

ん？ そういっつ時、もうずっし、そんなどうなったの？ そんなどうなったの？ て続

きを聞へタイプだったのね。

射的 うんうん

羽化 よくお話してへくれたおばちゃんか、めでたしめでたし、って言うやべっかいつちやう

から、とか、なんかそういっつのが嫌だったのかもしれないだけ、そんなどうなった

の？ その後は？ っし、じにかくお話終わっちゃっつのが嫌、

沈黙 でもさ、そんな、めでたしの後、とかなんもないでしょ？

羽化 そこを無理矢理続けんの。

射的 「おじいさんはそれから一年後に肺がんがこの世を去り、更にその12年後におばあ

んは老衰で静かに息を引き取りました」

沈黙 そんなも子供に聞かせっつしするんですか。

え、で、その続きは？

射的 え？

羽化 　　って聞いてくんの。それで、おじいさんもおばあさんも、シロもクロもノリも死んで、家が崩れて、ダムの中に村が沈んで、その後、それからどうなるの？　5年後、10年後、100年後、そして1万年後。
　　一体、どうなっちゃうんだらう？
羽化 　　5年後、10年後、100年後、そして1万年後。
天秤 　　一体、どうなっちゃうんだらう？
二人 　　想像力！
沈黙 　　どうもなんねえだらう、実際。
羽化 　　だったら沈黙の宇宙はそこで終わりなんじゃない？　いつか本当に1万年後はやってくるわけだし、もしかしたら、その時にあたしは、1のブレーンにまた帰ってへるのかもしれない。

無言。

珊瑚 シャテキーン
沈黙 　　っっていつてその時に入ってきたのが、珊瑚。
珊瑚 はい
珊瑚 どうやら射的さんの職場の同僚ってことらしいんだけど、引越屋って女の人もいるんですね。
珊瑚 ふっつーに居るでしょ。ダンス運ぶだけが引越じゃないんだから。
羽化 　　ですよ。
射的 　　あれ？　どっしたの、っっていつかよへわかったねこんなところ。
珊瑚 そう。めっちゃ迷った。
射的 　　ね、わかりにくから。あれ、今日、仕事は？
珊瑚 お休み。っって、こないだソフト渡したでしょ。
射的 　　ああ、自分のところしか見てないから。え、どっしたの？　こんなとこまで？
珊瑚 え？　暇だったから、お見舞いだよ、
射的 　　ああ、
水飴 　　ね、下行じじい。
沈黙 　　ん？　ああ、はいはいはい。
羽化 　　それじゃ、あっしらはまた……。

気を利かせた風で屋上を降りてゆく3人。

屋上

：傍観者

屋上に残される射的と珊瑚。

射的、ちよっと疲れたように、ベンチに寝そべる。

珊瑚 何疲れてんの。

射的 ちよつと今、衝撃的なことがあってね。

珊瑚 何？

射的 んー、なんだろうね。1万年間たった1人で過すとして、その退屈に君は耐えられるのか、ついでにひね。

珊瑚 何それ？

射的 嘘みたいなホントの話。

珊瑚 ふうん……？

射的 珊瑚だったらどう思う？

珊瑚 あたし？ ええー？ 1万年？ もういつそのこと何がどうなってるのか全部見れたら楽しいだろうなあて気がするけど、うん。楽しそう。

射的 そうか……。でもそれって、傍観者の楽しみだろ？ 結局。

珊瑚 ボウカンシヤ？

射的 みんなが争ったりあがいたりもがいたりしているのを、なんか、ちよつと距離をとって見ていたっていうかさ。自分はその中に入らないで。

珊瑚 ……それってつまんないの？

射的 珊瑚がつまらないんなら、つまんないんじゃないの。どうなの？

珊瑚 わかんない。でも、え、シヤニキンはじゃあ、ボウカンシヤじゃダメってことだよな？ ……少なへともこれまででは何かに参加してきたつもりだよ。研究者のころなんかは特にそう。

珊瑚 研究者。

射的 研究者。

珊瑚 そう物理のね。今の仕事だって全然好きでやっているけどさ、でも引越やっているとたまに右から左にものを動かしているだけみたいなきんじするじゃない。あれ、しない？

珊瑚 するする。

射的 研究の場合はもうちよつとわかりやすいっていうかさ。や、俺なんて全然そんな研究者っていつほどのこともないし、なんの功績も残してないんだけどさ、ドクターの時に自分の書いた論文をスウェーデンの研究者に引用されたことがあったのね。

珊瑚 すげーじゃね

射的 ま、たった一回だけなんだけどさ。それもほんのちょこっと紹介する程度のもんだっただけで、なんか、すげえわくわくしてる。

珊瑚 うんうん。

射的 なんかちよつとでも自分の研究で物理学全体が前に動いている、じゃないけどさ、別にノーベル賞取るとかさういうでかいことじゃなくて？ ほんとに細かい細かいことだよ。

珊瑚 もさ、そういう積み上げがなかったら大発見も大発明も絶対ないわけだからさ、

射的 それ何、どんな研究だったの？

珊瑚 ん、次元のコンパクトファイブレーションに関してなんだけど、あの、異次元空間の折り畳みっていう、またブレーン宇宙論とは違う立場の研究だったんだけどさ。

帳尻 食えねえからなあ、この業界も。
射的 ですよねえ。

帳尻 射的さんも逆風の頃にやめちゃったの、物理は？
はい。あの頃、相当、失業したんじゃないすか？ 僕も含めて。

帳尻 だね。マイクロブラックホールの誕生あたりから、風当たりがもう、なあ。
新月 もともと儲かる仕事じゃないしね、

糸口 あと生活感欠けている奴多いじゃないですか？ 最低限メシ食えて研究できればあと
はもう何でもいいやみたいな奴ばっかだから。

帳尻 それはお前の周りの話だろ、
でもわかりますよそれ。

射的 なんだったんですかねえ、あの逆風は……

帳尻 やっぱ人類としてのトラウマみたいのがあんじゃねえの？
射的 ト라우マ？

帳尻 ほら原子力の初期に大分、はしゃいじゃったわけじゃない人類は？ うわー、原子力す
げー、原爆作っちゃったー、落とされちゃったー、ふざけんじゃねー、みたいな？ そ
ういうのがやっぱトラウマみたいになってるから、マイクロブラックホールも軍事利用
されちゃうんじゃないかっていう、要するにそういう、警戒でしょ？

射的 あんなもんアリにすら気づかれない程度のもんじゃないですか。

糸口 軍事利用とか……（ありえないし）

新月 あたしは結構ね、あのアニメが大きかったと思うんだよね。いたずらの、

射的 ああ、あれですかあの、ブラックホールに地球が飲み込まれちゃっていつ？
新月 そうそう、見た？

射的 ちゃんとは見てないですけど、噂だけ、

新月 なんかね、いかにもっ感のなんつな感じの人が出てきて実験室の中でマイクロ
ブラックホールを作んのね、で、それが地球全体を一瞬で飲み込んでっただけじゃ
ないって。

糸口 わあああっつつー！（アニメのそのシーンを糸口なりに再現している。ミニマムに）
大分、トホホな感じじゃないすか。

射的 でも無駄に丁寧に出来てさ、なに？ 全部の使わないうったとかっつって
無駄じゃないです。やっぱ味が違いますよ、セルは。全然違う。

帳尻 あれ見て、集団自殺がなんかやらかしちゃった子供居たでしょ？

糸口 インドでしたっけ？

新月 あー、確かそう。

射的 居ましたね。はい。

帳尻 あれが意外と決定打ってつかさ、

糸口 印象ですからね、要するに。

新月　ま、確かに、4次元とか言われるより、あのアニメのが感覚的に来るものがね。
帳尻　ああいう世論つうの？　一回盛り上がりっちゃうともう駄目だな。とにかく全部禁止！
射的　みたいなさ。どこも全然予算おりなくなっちゃったもん。
そんなのなんか、プールに塩素入れたら海でクジラが絶滅するんじゃないのか、とか、
そんなぶらいい外れな話だと思っんですけどね。

帳尻　お、「射的」くんだけに「的外れ」にはうるさいね
新月　寒い

射的　いや、でも個人的にはクリティカル・ヒットでしたよ。

帳尻　お、来た。

射的　いやネタじゃなくって、

糸口　的外れな世論でやめる破目になったってことでしょ？

射的　そうす。僕はだから……、あ、理屈さんも一時期干されてたみたいな話聞きましたけど

新月　だね、あの人も。

帳尻　だからある意味トリップはチャンスだと思ってる部分てのはあると思うよ。

射的　ああ……

糸口　まあ、一つのチャンスではありますけど。あ、ていつか僕らはそろそろ。

新月　あ、だね、戻らないと。

帳尻　おう、そんじゃま。

糸口、新月、帰る準備。

ここで沈黙が帰ってくる。

糸口　おお、沈黙じゃん

沈黙　あれ、みなさんで休憩ですか？

新月　洗濯物。

沈黙　ああ、

射的　あれ、彼女さんは？

沈黙　あ、帰りました。新幹線の時間なんで、

射的　あ、え、新幹線？

沈黙　はい。岐阜なんで。

射的　うわー、すごいね。

新月　なにになに？

射的　いや、彼女さん岐阜から来てるって、

糸口　うおー、

沈黙　まあ、そんな、ほも遠くなっちゃいますよ。

糸口、新月、はける。

無言。

帳尻 俺、思うんだけどさ、マイクロブラックホールと、ブレーション・トリップにはなんかつながりがあるのかもしれないね。

射的 え、え、どつどつどつですか？
ガイダンスの時もブレーション同士の接触モデルにはなんか納得できないとかいったでしょ？

射的 はい、言っていました。

帳尻 俺はブレーション・ブツク・モデルのを考えてついで、ブレーション・ブツク？

帳尻 お、沈黙くんも聞いてよ？。だからどつどつ本のさ、ス、スージのーしーしがブレーションだと思っつよ。例えば俺らはこの本をどうやって串刺しに仕込んでるんやと思っつよ？。マイクロブラックホールはこの本をどうやって串刺しにして穴あけたみたいなものもんでさ、さばーって串刺しにっついで、ブレーションを貫通して別のス、スージに行っちゃっつよ、よ。そしたら僕らは、え、みんなで隣のス、スージに飛んでるわけですか？

帳尻 いや、むしろ俺はね、離脱者はそれぞれ違うス、スージに飛んでると思っつよ。

沈黙 それぞれ？。ついでじゃあ全員別々にっついですか？

帳尻 そう。だから本でさ、背表紙で全部のス、スージのつながっつよ、つよ？。だから、そんな感じっつよ……

射的 じゃあ離脱者はみんな、宇宙を一人占めしてらっつよ、つよですか？
いいね、それ。そうさ、宇宙を一人占めしてらんだよ。

射的、沈黙、以下の台詞のあと二日後の二行へ。

沈黙 ていつ話をその時に聞いたんですけど、自分の中では割とそれでっかくて。今までではなとどなへ、別の離脱者と俺は同じブレーションに飛んでるんじゃないかって思っつてきたんですけど、あ、あ、あ、さうさうさうさうだったから……、道理で全然誰にも会わないわけだ、とか思っつまして。個人的なブレーション。一人乗りの宇宙。知らない宇宙で、たった一人で、一万年間生き続けるのさうなとどなとど、さうなついで、俺は出来んのかな？

再びガイダンスの場となる。
とある会議室。

【2・2】 冤罪

冤罪 (同時) ガイダンス(同)

理屈 最終的な結論を申してあげますよ、みんなとどはいい半年半分の間に前後して、かなりの長

射的

理屈

糸口

年以上の期間。です。……そして君たちの行くブレインは、我々のいるブレインとは因果律の閉じた世界になってます。つまり、お互いに全く無関係な場所になるわけです。おそらくそこでは同時性が保たれていませんから、時間の進み方もズレてきます。時間の進み方がズレる？

はい。

本来時間というものは絶対的なものじゃないんです。強い重力によって光が捻じ曲げられてしまうような場所では時間の進み方はズレてしまう。ある人間にとっての一日は別の人間にとっての一日じゃないという、まあ、浦島太郎みたいなもんですよ。

沈黙

理屈

だから、いつかの時間での一万年が君たちにとってはほんの短い長さなのかはわからないし、君たちのすることが未来のことなのか、過去のことなのか、それを決定づけることにはもう意味がないんです。

無言。

沈黙

羽化

新月

羽化

帳尻

射的

新月

射的

うーん未来も過去もないっていわねてもなあ……

それじゃひょっとすると、すごい遠くの未来までいつちゃうかもってこと？

かもしれない。

はあ……

いやいや、時間の流れ方が違うんだから、未来とか過去とかも関係ねえんだよ。

あの、また戻っちゃうようなんですけど、

はい。

なんで僕らはブレインの外に出て、生きてるんですかね？ 特異点では情報保存則の破

れが生じるんです？ なんてブレインを跨いでも僕を構成する量子情報が保存されてるんですか？

そこがまあ難しいところなんですけど、

結論としてはわからない、というのが学者として誠意のある答えなんですけど、

人としての誠意ある答えは？

一応言ってしまうと、完全に君達の量子情報が保存されてる証拠は何処にもない。

ん？ え？

パソコン上のデータの移動みたいなものを考えて欲しいんだけどね、ブレイントリップというのは、PC同士を直接ケーブルか何かで繋げてるみたいなものなんだよ。ブレインとブレインの接触している場所を通して、君らがこう、さ。

うんうん

挨拶

沈黙

糸口

まあ、そこまではなかなかなさ

両方のPCが同じ言語で動いていねば何の問題もないんだけど、たとえばその二つが、根本的に違う言語で動いてるものだったらどうなの、って話だよ。そしたら、何の調整も

しないでデータを送っても、相手側のパソコンでは、データが上手く開けないわけじゃない？

もうなに言っているか百パーわからない。

まあまあ、

だからね、羽化ちゃんが日本語しか話せないで外国行ったら言葉が通じないで困るねって。

めっちゃわかった。ええ、こんだけのことを？ バカなんじゃないの？

うん。そうだね。

だからトリップ先での俺らの記憶てのは、そもそもアテになんねえんじゃないのかって話があんだよな。情報を転送する際のバグが記憶として残っているんじゃないのかってん？ でも記憶ならちゃんともりますよ？

それが正確な情報なのかどうかはよくわかんないだよ。

別のブレーンで体験したことはすべて君たちの証言に頼っているわけだから。

俺らがウソをついているんじゃないか、ってことですか？

違う、

そういついじやないただけよ、

ま、でも極端にいやそうだよ。俺らが作り話してようがそれを見破る方法は何にもないんだから。

ウソなんかついてませたし。

それはわかっているんだけどね、

君らをだから、信じてはいるんだけど……

要するに俺らが持っている記憶は、L/Mみたいなもんだっていついじや……

ある種のノイズである可能性は、否定できないってこと。

でも俺の記憶は正確なんですよ？ ってそんなもん実際に体験しているんだから証明

の仕様がなくてしょ？ ホントに、あんたらみたいな人種は当たり前前のいついじや……

んないんですね。あんたのネクタイが黄色いこととか、あそこに見えるビルは幻覚じゃ

なくて本当に立っているんだとか、時間は流れているとか、そういう完璧に当たり前前の

いついじや…… あんたらは「その話は断言できない」として、そのいついじや……

そういつ、冷静な判断を持っていたいついじや……

実際できないもんを断言してもしょうがねえべ？ カリカリすんなよ。L/Mよお前。

といついじや…… 我々には、ブレーンを出たあとの君たちがどうなっているのか全くわから

ない。今まで散々協力してもらって何だか……。本当に、申し訳ない。

冤罪

：琥珀

帳尻、新月が登場。

帳尻は先ほどの会議での沈黙の様子を話題にしている。

新月 ……ねえ、最後のトリップまでしてあげてほしいわね？

帳尻 あ、俺の？

新月 そうそう。

帳尻 へー、まあ、誤差はあるだろうけど、半分まで一週間の予定じゃね？ 今回の瞬間で

もおかしくはねえけど。

新月 この瞬間なんかにいっちゃったけどいいの？

帳尻 まあ、休憩中だよな。え、そういっていいじゃない？

新月 あたしあの、あんたと一緒に行くわ。っていつのはどう？

帳尻 へん？ 羽化と射的みたいにしていい？

新月 そうあの、トリップの瞬間に触ってねはいっていい？

帳尻 そんなのただの憶測だろ。っていうか、それはまた、うーん、いや、辞めようよ。

新月 いや、もう、決めた。

帳尻 ……あのさあ。

新月 え、誰か一緒に行く人とか居る？

帳尻 いや、まあ、別にいねえけど。

新月 じゃあ行へ。

帳尻 始まった……。お前そういうことがほんと……。あのね、そんなことだったってお前、

新月 琥珀はどうすんだ？ お母さんいなくなったら困るだろう？

帳尻 その話ほもちろんだ、うちの両親はもちろんだ、でもその時は面倒見のつもりで風

帳尻 についていってあげよう。

帳尻 何言ってるんだお前？ なにを……。両親に面倒見させてあげよう。

新月 妹も協力してあげようっていいわね？

帳尻 いやいやいやいや、俺がいなくなるんだからさ、琥珀はお前、父親がいなくなるんだか

帳尻 らね？ 母親までいなくなるとどうするの？ 何言っているかわかってんの？

新月 緑のランドセルがいってほしいです。琥珀は。

不可解な言葉の解説を待つ帳尻。しかし涼しい顔で無言の新月。

帳尻 ……おう？ ちよ、お前、わかるように話せよ、なんだそれ？

新月 緑の……。ランドセルが……

帳尻 いや、聞き取れてはいるんだ。そうじゃなくて。

新月 緑はねえ、絶対後悔するから辞めたほうがいい、っていったんだけど、

帳尻 うんうん

新月 でも、どうしても聞いて聞かなくて。緑じゃなきゃいらなくたって、しかもそ

れ普通の緑じゃなくって何？ エメラルドグリーンっていつか、百貨店でよく見るようなやつ

すいグリーンなのね、むしろ、なんでこんなランドセル作ったのかな、みたいな。だぞ

うですよ。琥珀は。

帳尻 尻尾をつかませていって俺にも、な、その話題の。

新月、車椅子を階段から落しちゃう。

帳尻 やめろやめろ、障子もなごじやうだてめえ。やめろ。虐待だ、わかった、いじめろ。
いじめろ。

新月、思いつくまま。

帳尻 一スーやお前。この、蹴っ飛ばすぞてめえ。あーいめん、もう笑わない、いめん。

無言。

帳尻 俺もまあ、な、そういつてもらえただけでなんか、救われるものがあるけど。

新月 なに

帳尻 まあ、止めよう。親の恩は子に返せって。ボケ老人の方は、まだ一応、ボケかけ、ぐらいつ済んでるから。な、子に返せ。その、うん。わかったよもう、わかった。俺も残せるものはちゃんと残して行くから。

新月 思いつく？

帳尻 いや、思いつくまあ、そうだらうけどお金とかさ。それだけじゃねえな、ほらあの、お金とかさ。

新月、帳尻、去る。

舞台上の端のほうで二人の様子を見ていた羽化と挨拶が中央に進み出る。

冤罪 ……プロログ3 (冤罪)

羽化 もしかしたら1万年間愛する人と一緒に居られたかもしれない素敵な可能性を、帳尻さんはこんな風にして捨てちゃいました。あとで、酔っ払った帳尻さんにやけくそみたいにして、この時の新月さんとのやりとりを教えてもらったんですけど、そんなに呑む人なんだ。

羽化 うん。ていうか、いかにもって感じじゃん。

挨拶 へー、なんか意外。

羽化 全然意外じゃないよ。や・でもね、前に写真を見せてもらったんだけど、琥珀ちゃんはマジかわいいから、もうね、いねはあと十五年もすればすさまじい、いい男が誕生するよこの世に。

挨拶 そんなに？

羽化 あれはガチ。も・超おめめばっちりだから。絶対見せてもらった方がいいよ。
挨拶 うん。今度見せてもじい。

羽化　なんか最近、更新してないじゃん。

挨拶　あ、ブログ？

羽化　どうしたの？

挨拶　だって途切れちゃったら意味ないんだもん。ああいうのは。

羽化　そっか。そっかもね。

挨拶　……羽化ちゃんあたしさ、前にあの「続けてきたことが何も無い」とかって書いたこと

あんなだけね、

羽化　うん、見た見た。

挨拶　そう、書いたんだけど。あん時は何も無いってホントに思ったんだけどさ、ずーとず

ーととちっちゃい頃から続けてきたことが、あ、あった、と思って、いじだ。

羽化　え、なにになに？　続けてきたこと。

挨拶　あのね、ずっとあたし人気者になりたくて。そうそう。ずーっと人気者のフリをしてき

たなあと思っつい。

羽化　なにそれ、モチモチとかってどういふこと？

挨拶　んー、ていつのもあるのかもしれないんだけど、違くて、何、単にモチたいとかって

うんじゃなくってさ、うーん、なんだらうう、人気者になるの。

一緒じゃん。

挨拶　うん。や、だから全然、男っ気のない女の子とかと趣味の話とかが出来て、でもやっぱ

りちゃんとかキレイにっつい、それで男の子とかにもな、友達感覚みたいな感じじゃあ、

「黙ってりゃいい女なのになあ」、「うっせー」パシーンな感じでやうらやうらが平然としゃ

っ、

欲張るねえ

羽化　そう。欲張っちゃんだよね、なんか。そう。そういう女になるうと思っつい。

挨拶　なんかそれじゃ、なれなかったみたいじゃん。

そっか。

羽化　なったなった。大丈夫。

挨拶　あ、ほんと？　人気出た？

出た出た。うん。出たことごとけいっけい。

挨拶　うん。じゃあ、しよっか。うん。えいっけい。

二人とも笑う。

羽化　なんか、女の子で良かったなあ、とかそういうこと思ったりするけども無くなんのか

ね？

挨拶　一人の宇宙だから？

羽化　オシャレも何もないわけだし。

挨拶　うーん、でもあたしはなんか、一人になっても女だなあ、とかは思っついっけいな気がするけ
じ。

羽化 そっか。

挨拶 うん。なんか多分。

羽化 そっかもね。

挨拶 結構、羽化って、素直っていつか、考えやわらかいよね。

羽化 ほんとに？ ええ、なんかやだそれ

挨拶 なんでなんだ？ いいじゃん

羽化 だってなんか意思弱いみたいじゃん。

挨拶 え、違つよだから、弱いんじゃないわなくて、やわらかいんだって。

羽化 (無言で何度かうなずいて、)

挨拶 (そのうなずきに答えるめづりうしろをうしろ)

羽化 ありがとう。

挨拶 ん、なにが？

羽化 や、わかんないけどなんか、ありがとう、と思って。挨拶はなに、もう書かないの、「はじめの「トバ」？」

挨拶 ああ、書くよ。でもなんか、最後の一言「うしろ、」の独り言じゃなくて、なんか、お話しした時の「トバにしたいなあ、」とか思っっ。

羽化 お話っっ？ 誰っっ？

挨拶 まあ、別に相手とかは誰でもいいんだけど。あ、羽化ちゃんとかだったらいいな。

羽化 あたっっ？

挨拶 そうなんか羽化ちゃんと思っっいきりっっでもいっ話っっばいっっしてっっネ、そうっっ中々でなんか、最高にどっっでもいい言葉を見つけたい。

羽化 じゃあ、よろっか今度？ なに、全力で退屈を謳歌するが。

挨拶 やろっやろっ。あー、絶対よろっ。

羽化 何もしないんだけどね。二人で。

挨拶 退屈とかいいね。それはもう、全然、退屈じゃないよ。

いっっの間にか、場は家族のそれになっており、愉快と白夜がある。

愉快 でなんだ、次に行くのはいつなんだ？

挨拶 え？

愉快 なんがその予想みたいのがあるわけだろ、トコトピの？

挨拶 そのうちだよ。

白夜 なにそれ？

挨拶 別に。もついかないで済むなとってラッキーじゃあないっっそのうち必ずお泊えが来る

愉快 っっっっっの。

愉快 そっか……。

白夜 うそ臭いんだよねあ、なんか。わかりませんばっか言っってんせ「予想なとてっっ

挨拶 でもちやんかっったただだから信っっていっかなっってっっよ。

恵まれている赤ちゃんじゃない赤ちゃんはやっぱり確実にいるわけで、それは単なる確率の問題に過ぎないのだ。

このエントリーは明日には消します。

最後がこんなに暗いエントリーじゃなんだか残念なので。消します。

毎日見ていってくださった方、本当にありがとうございました。

やむを得ずー

それでは挨拶は家族とお食事に行ってきます。

3人で外食なんて本当に久しぶりだから楽しみます。

あんまり素敵な料理の写真が取れたら、またアップするかもしれませんが、最後とか言っていてなんなんだよな、それじゃ、行ってきまーすー

去っていく挨拶、登場する射的がすれ違い。

冤罪

…変な質問

射的

11月23日、勤労感謝の日。出発の予定日まであとちょうど1ヶ月。クリスマスまでの前々日にどうやら僕は旅立つことになるらしい。なんか逃げる方法はないのかな？ 考えるのを辞めたい。何度か真剣に考えて、どうしようなく自分には何にもできないってことがわかったし人間全体で考えても手にしている情報の絶対量が足りないみたいだ。だからそれは考えなくても無駄。たとえば、戦国時代の人間がガンを克服しようとするような、洗面器でロボットを作るような、無駄。それは多分、黙って受け入れるしかない。溶か着いて行動すればそれなりの時間があるんだから何かましな過し方が見つかるような気もするんだけど、でもダメだ。気が散る。逃げる方法について考えずに過す事ができない。頭の中みんな掃除して、そういつ考えをきれにデリートしたい。

射的さん聞いてます。

はい、はい、ななごじょうじ。

これはまだ多分の話なんですけど、あの、沈黙が死にました。

……。

これも多分なんですけど、自殺です。

多分って？ 遺体は見つかっていませんですか？

いえ。

じゃあ、死んでるとは限らないじゃないですか。

そうですね。

トリップが起きたのかもしれない。

射的

水飴

射的

水飴

射的

水飴

射的

水飴

射的

水飴

水飴 そつななんです。だからお葬式とかもあげませんのよ。でも遺書があるんです。

射的 ……それでもまだわかりませぬよ。
水飴 私もまだわからないうちは思いついてるんですけど、あ、いねなごちそう。

水飴、遺書を差し出すような素振り。

射的はそれを気味悪がって受け取る。

射的 あれ、これはあの、読ませてもらってもいいんですか。

水飴 ういづりむしろ私が勝手に読ませてもらいました。射的さん宛てです。

射的 じゃあ、あの、後で、読ませてください。

水飴 はい。あの、射的さんはいっ行かれるんですか、向いの方？

射的 まあ、近々。

水飴 お一人で？

射的 ええ。

水飴 射的さんは一人で、でも行へんですか？ ……いや、私なら行かないかもしれないな、と思っつ。

射的 ええ、でも、僕は行きます。

水飴 私もそんなに断定的にいうつもりは全然ないんですけど、まあたしえ話として？ 沈黙が自殺してたじするんじゃないですか？

射的 ええ、ええ。

水飴 人間は一人で生きてても人間なんですか？ ていつのも変な質問ですけど、なんていう

か、これでも死なないじゃないですかね？ そいついつとは絶対したくないって言う

てだから。そいついつのは罪になるんじつか、まあ、ちょっと私も何いってるかよくわか

らないんですけど、現場はそいついつ安楽死とかにならないんですか。

射的 なるんじゃないですかね。いっと思えますよ、何でも。いや、何事もいっついついあれで

すけど、まあ、あの、解釈は自由だと思いますから、どんな教えでも。

水飴 沈黙はどつでしたか、最近？ なんか射的さんの目から見てもおかしいように思っつ

射的 じつか、

水飴 へー。じつじつでじつじつねえ……。おとくに会ったきりだったんで僕は。

射的 はいはい(お)お)はじつじつだったんですか？

水飴 その時はちょっとこの、まあ、元気に議論してましたけど。でもまあ、普通でしたよ。

射的 そつですか……

無言。

水飴 それじゃあの、お体に気をつける、もんなんですかね、あれは。

射的 まあ、一応、僕の行へつては身体はめりますよ。

水飴、あまりに突飛な話でちょっと笑ってしまっつ。
吊られて射的も笑っつ。

水飴 ……それじゃまた。

射的 ええ。

水飴が帰ろうとするのを引き止めるように、射的、

射的 あのたとえば、沈黙がそういう死に方だったとしても、それは仕方ないんじゃないかな

って思いますよ。だって、だって記憶ってのは人付き合ひの中で証明されるもんだし…
…。だから自分では確かこの人と喧嘩したとか、仲直りしたな、なんて思っても自
分以外の全員にそれを否定されちゃったら、意味がなくなっちゃうもんですよ。だから
その、沈黙が、誰にも会えないところに行くって時に、そういう、そういう思いがするの
は当然、っていう部分もあると思うんです。

水飴 道でばったり会った時に、射的さんに他人のフリされちゃったら、半分は本当ですもん
ね。

射的 そうです。

水飴 じゃ他人のフリはお互いしないというルールは。

射的 はい。しません。約束します。

水飴、はける。

射的がさっき受け取った遺書に注意を向ける。

舞台上ではないギャラリーのような場所に沈黙が現れる。

冤罪 ……沈黙の遺書

沈黙 沈黙の遺書。

射的 遺書っていうよりも、これは、こないだ二人で話したことをメモしたみたいなもの。

沈黙 あのですね、130歳を越えて生きてた人間っていうのは歴史上一人も居ないんですね。

射的 へーそういうの？

沈黙 いや、もしかしたら居たかもしれないレベルなんですけど、ちゃんと記録に残っている
人での最高は122歳で。これ、ジャンヌというフランス人なんですけど、どうですか？
いや、どうってわかんない……

沈黙 だってこんだけ科学が発展して、宇宙に行ったりニュートリノ検出したりしてんのにな
ったの122歳ですよ。…これ結局、人類は老化を克服できない、っていうことだと思っ
すよ。でも俺は、何かのきっかけでそのうち老化ってなくなると思うんです。こうか多
分、寄生虫なんですけど最後は。

射的 寄生虫？

沈黙 はい。DNAがどういこうとかそんなじゃなくて、絶対もって意外性のある？ だから寄生虫で人類は老化に打ち勝つんじゃないかねかと思ってんですよ。それが、ガンですね。もう俺らがガンそのものになる、みたいな。

射的 なんだそりゃ

沈黙 わかんないですけど。どっちにしろ、俺らの世界はそのうち誰も老化しない、誰も死なない世界になっていくと思うんですけど、まあ、そしたら、まず出産っていうのが金持ち限定の特権になると思うんですけどね。

射的 増える一方になっちゃうわけだから？

沈黙 はい。でもやっぱり子供は産みたいじゃないですか？ なんか俺、絶対、子供はいた方がいいと思うんですけど俺は。だからそのうち、みんながみんな自殺する世界になるとじゃないかと思うし。

射的 なんで？

沈黙 だって、自殺して人口が減れば、その分子供産めるじゃないですか？ いや実際とて心理的な抵抗みたいのは強いと思うんですけど、絶対ありますって。でもそしたらビジネスになんできますよ自殺が。も・らいプの最後とかに全員で死ぬとかやったら、これはマジ死ぬほど盛り上がりますよ？

射的 死ぬほどっていつか……、

沈黙 ですからね。て話をこの間あの、水飴、っていたじゃないですか？ あいつにいたら「そんなの悪魔のきんぐだ」って。大袈裟なんですアメイシよ。

射的 なんて沈黙はそんな風にな、そういうふう、死ぬって意味があると思うっての？ だって、トリップするってのも意味があると思うじゃないですか？

射的 無いじゃない。

沈黙 だって、生きてるって意味がないから、今はどうやって、死んでいくって意味がないほうが、なんか、こっぴどい感じがするじゃないか？

沈黙、射的、退場。

すれ違いに羽化、天秤、登場。

【2・3】 引越

引越 ……天秤

羽化、天秤、冒頭の再現のような様子で登場。

しかし、今回、羽化は舞台上のどこかで休をとっています。

天秤

今からするのは、私の友達が引越をした時のお話です。ていうところからこのお話を始めたと思うんですけど。えーと、当時、欠勤の増えていたドーナツ屋のアルバイト店員羽化さん、

羽化は答えない。

天秤

ドーナツ屋のアルバイト店員羽化さん、がちびっこのドーナツを辞めてどっかに引越してまっけてからしばらくが過ぎまして、で、私もブレーン・トリップで言葉の意味が少しかわかるようになったんですけどね。それで、その時にはじめて羽化ちゃんはふざけてたんじゃないかっていうのがわかりまして。あ、あ、ふざけてたんじゃないんだ、ってことがわかったら、ちよっただけ申し訳ないなって気持ちも一回べらい羽化ちゃんに会っておかきやいけないううな気がしてきましたですね。

ていうのは、あの、メールを、ちようだいね、とかいったくせにあたし、羽化ちゃんから着たメールの返信してなくて。あの住所とか書いてあって、新居はここです、遊びに来てね、ビックリマーク、みたいなメールが着たんですけど、ま、ま、結果的にシカトみたになっっちゃって……。

でそつ、あたし、まずはメールしたんですけど羽化ちゃんに。「お久しぶりー！ 羽化ちゃんに元氣？」みたいな。ちよっこのう、思えば無謀なテンションのメールなんですけど、シカトしておいて羽化ちゃんもねえもんだろーと思って、当然、返事来なくて猛烈に反省しまして。でも別にケータイ解約とかはしてないんですけどね。あの、メーカーモンスターからエラーメール返ってこなかったんで。だから、あたしも待ちちゃって。なんか、しよっちゆうセンター問い合わせとかして。あれがね、しんどい。センターにメールがありません。これ何度見たことか。

で、その後、むしろ家に行ったんですけどね、直接。……あ、コッ、と思いました今？ ちよっこのハンなんですけど、だっとなんか電話とか出たらヤバイじゃないですか？ まずは見えておいてって、敵状視察じゃないですけど行ったんですけどね。そしたら、その羽化ちゃんのメールにあった住所は明かに誰も住んでいない感じになって、空き室になって書いてあったんですけどね。それであたし意地になってきちゃって、その、追跡するみたいな感じいってんじやないですか？

それであつちよっただけですか？

日食

天秤の一人語りの間にいつしか日食、珊瑚が登場しており、だんだんと三人の会話になってく。

天秤

そつななですよ。

日食 確かに、羽化さんの引越担当しておりますけど、お友達か何か？
天秤 はい。

日食 それじゃ、今日はお手伝いどうですか？
天秤 え、は？ 今日？

日食 あれ？ 珊瑚ちゃん、今日だよね？

珊瑚 はい。羽化さん、午後、夕方ですね。

日食 今日、また引越です。

天秤 あじゃー、あ、え、あたしも行く流れですかこれは？

日食 いや、流れは知らないですけど……。じゃ一緒にいきます？

天秤 はい。じゃ、えーどうしよ？ あ、制服はお借りして……？

日食 働くんですか？

天秤 ですよね。ですよね、すみませんちょっと……。おっ、いきなり会ったのか？ おはね

日食 でも買ったか？

日食 それじゃ行きまじよう

天秤 なんていって秋の日の午後、羽化ちゃんの家に向ったんですね。

日食 なアんか、どうしちゃったんですかあの方は？

天秤 どうしたとは？ 羽化ちゃんが？

日食 ええ。こんなにお得意さん化する人は中々居ないですよ。ね？

珊瑚 ですよ。だっこの半年、7回とか？

日食 7回ってのはなごころの回の回数じゃないか？ ま、たかかへんぞなごころの

天秤 なんていっているうちに、今現在羽化ちゃんが住んでるって言うお部屋に着いたんで

す。そしたら、

射的、登場。

射的 おつかれっす。

珊瑚 あれえ？

日食 何だ、先着いたの？

射的 はい。今日はあの、中止ですよ、引越。

日食 ええ？ 困るなそんなこと言われちゃうと、え、何ていったのおお客様？

射的 いや、もう居ないんですよ。

日食 居ないの？ ああ、へえ？

珊瑚 どうしちゃったの？

射的 いや……

天秤 あたし、こじは勇気出さじかなきゃいけなごだらうと思っ、あの、中、入ってもよろ

珊瑚 っすよ、しょうか？

日食 っす、ダメですよ。何でっすの？

射的 っす、ダメですよ。

羽化

あるいは家族みたいな人とか？

射的

みんなが集まって個人的なことを心配してもらって、手伝ってもらったり、そういう、引越の感じが好きだったのかなあ。

天秤

友達。

射的

が、だんだんと減ってきて。彼女の諦めていったものの多さが、そのまま部屋の空白になって大きくなっていったって、こんな、だだっぴろい部屋に、ぼつんと一つだけ小さな冷蔵庫を置いて……。

こんなものが生活なんだろうか？

それでもこの子にとってはこれが生活なんだよなあ。

最初に会った時に言っていたみたいなの、

羽化

ミニマムライフ？

射的

てのはどういふことをいうんだろうか？

天秤

小さな冷蔵庫を開けてみると、中から檸檬が出てきた。

ひんやりとしたその檸檬には中身がぎっしり詰まっていた。

耳にそれを押し当てたら、なんだか鼓動が聞えてきそつなべらしい。

射的

いつの間にか羽化さんのペンダントはさっきより強い光を放っていた。

やがてその光は大きな異次元球になって彼女を飲み込んで行く

太陽は、その寿命が終盤に差し掛かると赤くなって巨大するといいます。

どのくらい大きくなるかというと、水星、金星、地球、火星、って全部飲み込んでしまう。

ぼっ。

それが大体50億年後の未来。

僕が今いるこの場所も、あなたが今坐っているその場所も、その時、太陽の一部です。

わっ。

知らない宇宙を一人占めしに行ってきます。

知らない宇宙にお引越。

それじゃあ、1万年後に会いましょう。

射的、二万年後に旅立つ。

ブレーション・トリップのダンス。このダンスは射的の独舞である。

異次元に飲み込まれるように奈落に消えていく射的。

暗転。

檸檬

・白夜と愉快の回想シブザブ

明点するとレストラン。

愉快と白夜が二人で食事に来ている。

愉快

今日は、なんだあの、番頭くんは都合悪くなったのか？（筆者注：番頭くんは白夜の恋人以上婚約者未満の人です）

白夜

え、番頭くん？ なんで？

愉快

や、外で食事っていうから。

白夜

あ、なに、そういう話だと思った？ 娘さんを僕に下さいみたいな？

愉快

人間は常にそれなりの覚悟というものを、

白夜

今日は全然そういうんじゃないから。

愉快

じゃあなんなんだ？

白夜

別に。二人じゃ変？

愉快

いや、そうじゃないけど。うん。……びつだ、おまえもあれが、少しは落ち着いたか？

白夜

大丈夫なお父さんじゃ？

愉快

ダメだぞ。

白夜

ダメ？

愉快

俺はダメだ、もう、すみませんだぞ。すみません。

白夜

うんうん……。

愉快

だからどうなんだ、少しは落ち着いたのか？

白夜

落ち着いたよ。てか、あんまり実感湧かないけどね。

愉快

湧かないな。湧かない。湧かない湧かない。

この頃から二人の背後に挨拶が登場し、二人を見守っている。

白夜

なんでいつぱい言うの。ちよつとあの日さ、今、お父さんが座っている間に挨拶が坐っつてっわ。

愉快

うん……。

白夜

なんか3人でたまには外食しようか、なんて、ほんと珍しいじゃん？ 挨拶にしては。

愉快

人多いとダメだからな。デパートなんかいったってすぐ貧血になって青い顔してさ。

白夜

迎えにいつてやったんだ、俺。

白夜

それは昔でしょ？ 一応あの子だって3年会社勤めしてたから。

愉快

ん？ うん、そうだな。3年会社勤めしたんだな。

白夜

あんな時まで仕事なんだもんなあ……、お父さんの会社は……。

愉快

あの時は商談だったから、ま、うちの会社がつてことじゃないんだけど、な、先方のアシがな

白夜

いつも気が利かないんだセンポウがまた。ねえ？ 挨拶もお父さん遅いね、て何回も電話見て。

愉快、うなづいてる。

白夜

そんでその内、お料理が運ばれて来てさ、あの時は、この、サーモンとキノコのホワイトクリームスパってのと、アボガドのサラダ、あと、季節のデザートでゆずと生姜のシヤベットってのがあつて、

愉快

生姜？

白夜

そう。なんか気になるじゃん？ で挨拶は絶対おいしくないよー、とかいってたんだけど、ど、まあ、他のデザートは結構普通の？ ラムレーズンのアイスクリームとかそんなのだったから、まあ、このはうちちょチャレンジしよう、なんてして。

愉快

ま、そういうワクワク感みたいのものな。大事。

白夜

で、まあ、食事がだいたい終わつて、いよいよデザートとなる前に、ちょっとあたしトイレに行ったのね。そんで、帰ってきたらいなへってさ。お父さんを迎えに行ったのかなつか、このお母さんちやっつ。

愉快

うんうん。

白夜

で、席に全部、荷物とか置きっぱなしだったから、帰ってきたらちよつとしかつてやんなくちやっと思つて。だってバックとかもそのまんまだつたし、無用心じゃない？

愉快

うん。そりゃそうだ。

白夜

そんでその後はあれだよ（お父さんも知つての通りだよ）。デザートは来るわお父さんは来るわ、挨拶は来ないわで。シヤベットなんか全部溶けちゃつて。ベターつてなっちやっつ。

愉快

食べっぱは良かったの。

白夜

ま、そうなんだけどね。なんかあたしも嫌な予感がしてたていつかさ……。

愉快

それじゃ今日食べたいやつ、その、生姜の。

白夜

いっよ、

愉快

なんで？

白夜

挨拶が帰つてきたら。

無言。

愉快

帰つていながら、挨拶は。

白夜

うん……

愉快 死んだわけじゃないんだから。俺達よりずっと長生きなんだから。
白夜 うん……。

愉快 元気出せ白夜。

白夜 はあ？

愉快 元気出せ。

白夜 元気だよ別に。大丈夫お父さん？

愉快 ダメだっていつてんだろ。俺はダメだ。もう。すみませんだ。すみません。

白夜 ……誰に謝ってんのよ。

二人、いなくなる。

檸檬 ……一日千秋／雨

舞台上のどこかで年老いた日食が語り出す。

日食 じいじとじいじのおふく、何も無い空をただ、じっと眺めている夢を見る。

「こないだ、どっせじいじおふくでも何も無いと思って本当に何の期待もせずじいじおふくの空を眺めていたら、めっけり飛行船が飛んできて、よかった。

飛行船てのはいいね。

めっけりめっけり。

老人にはびつたりの乗り物だ。

老人になったから俺が孤独になったなんてことはないよ。

孤独だというのがなら初めからそうだったし、それに、俺はいつでも孤独なんかじゃなかった。

舞台上ではないギャラリーのような場所に新月と帳尻が現れる。

新月 一日千秋とかって言うじゃん？ あれどっして春でも夏でも冬でもなくて、秋なんだろ
うね？

帳尻 んー。秋はいろいろ。死ぬからかなあ。

新月 ああ……。虫が。

帳尻 そうそう。虫が。葉っぱとか。

新月 死ぬねえ。

帳尻 秋だねえ……。

新月 春の霞も、夏の匂いも、秋の夜長も、冬の静寂も、みんな忘れた。

帳尻 めっけり全部、忘わすい。

新月 まるで何もなかったみたい。

帳尻 はじめから？

新月 まるで。

帳尻 何にもなかった。

新月 みたいじゃない？

帳尻 ねえ？

舞台上ではないどこかに天秤登場。

天秤 もしも一万年間の長い長いトリップが終わって、

もう一度、みんなが集まったらどうするんだらう？

もしも、その時、人類が居なくなったら、

なんかよくわからない生物とかに進化しちゃったら、

羽化ちゃん達はこの場所で、一体、何をするんだらう？

あたしの想像力はここまで。だから、あたしの宇宙もここまで。

もしも、もう一度会う機会があったら聞いてみたい。

羽化ちゃん、そっちのブレンでの喜らしはいかがですか？

挨拶 それから千年！

劇場の最も高い場所、キャットウォークのような場所から声が聞えてくる。

水飴 何もかもが昔とはあまりにも変わってしまった。

先日、ここでは、何かのフリ、なんてことは一切通じないんだということを知った。ウソをつこうにも騙す相手がいないし、演技をしようにも見てくれる人がいない。

ところで、私の身体は一体どこにいったんだらう？

珊瑚 誰かいるんだらうか？

僕という個人は消えてなくなっても、この国や、この言葉や、この思いは、人間は、なんらかの形で僕が死んでも残る。残響音として。

だから生きてるんだなんていって喜らしてきた。

だけでもう、これからは誰にも会わずに、死ぬ。

敵も味方も一人もいない。

沈黙 千年生きるって、嬉しかったも哀しかったも。

みんな平らになっちゃった。

にくんだ人も愛した人も、みんな等しく遠くなる

取り立てて憎しみ続けるほど個性のある奴でもなかったよなあ、とか

そんなにムキになって愛するほどの奴でもなかったよなあ、とか

時にはふっ、っ、思い出したように誰かを恋しく思ったりもするけど、

バイクに乗ったあいつのカーブの曲がり方。
姉さんのあの似合わない白い帽子。

お母さんがシャツを畳む時に、袖をパンってやる、その仕草。
そんなあれこれにふと気がふれたように恋しさが募ることもある。

いや、あった。

千年生きると人は遠くなる。

心は昔ほど弾まない。弾まないことが悔しくもない。哀しくもない。

みんな遠い

かすか かすか かすか

理屈

さらに千年！

射的、舞台上、奈落から半分だけ体を出してセリフ。

射的

音の無い場所で1万年生きた射的は、自分の存在様式を、生きているのか、死んでいるのかと「いつ、いつに区別することをすでにやめていた。多分彼は死んでいないし、もちろん生きてもいない。そんなことはわからない。わからないということがわかった。物事は移り変わって、形あるものは必ずその姿を失う。

射的

熱力学の第二法則。だけど彼は少しの間だけ気持ちを持続していたり、あの日の、あのことを覚えていたりするばかりに、失うことが怖くなる。

彼は時間の過ぎ行くことをまだ知らない赤ん坊が、

すでにそれを忘れてしまった老人のようになることを望んだ。

もうこれ以上進まない時間の中で、何も維持されず、何も崩壊しない世界を望んだ。

そうして彼はそうなった。

射的

彼は、もはやかつての彼なんかではなかった。とっくの昔に。
ブレンとブレンの間を漂って、ただ、信号を伝える存在。

個性のない、たけど、何者にも負けられないだけの力を持った、やりとりされるもの。

そうだ。お金のようなものかもしれない。

彼はもうどこへでも行けるし、何にだってなれる。

彼は檸檬。朽ちることのないプラスチックのレモンだ。

その小さな身体に、宇宙一回分の全ての「音」を携えて、

はちきれそうないモントイヒーローに身を包みながら、そいつは、

そいつは、もう一度、この場所で、

宇宙が始まるのを待っている。

舞台上、羽化一人。

以下、以下の声はすべてから聞える。

羽化

たまに考え事をしていると、私は一人じゃない、って感じることもある。誰かが耳元でくぐららないことを囁くような感じ。

誰かいるの？

ていつ問いかけへの答えがもう何もなくて、誰もここにはいないんだって、1万年前からわかっているけど、もう一度だけ聞きます。

誰かいるの？

誰か！

誰もいないの？

……答えがないのもわかっている。

でもこの呼びかけ自体が答えになっている。

私は呼びかけるための言葉を持っている。

きっと昔の私には呼びかける相手がいたんだと思う。

そのための言葉。

挨拶！

わたしにはきっと、挨拶をする相手がいたんだと思う。

おはよう。

おはよう。

はじめまして。

はじめまして。

なつなび。

なつなび。

いそごひ。

いそごひ。

はじめましておはようございます。

はじめましておはようございます。

なつなび。

羽化

挨拶

羽化

語り

羽化

語り

羽化

語り

羽化

語り

無言。

帳尻

じゃあまた。

羽化

おはよう！

無言。

羽化

おはよう！

無言。

羽化

高さも幅もわからなくなってしまうかもしれない未来のあたしへ。
どうしていますか？

あなたに何がわからなくなってしまうのか、いったい何をなくしてしまうのか、私にはわかりません。

今の私がだんだんと深くしてきたものの意味を、その価値を、

忘れてしまっていることを覚えてね、

きっとあなたも深くしたこともその記憶を辿るだけです。今はなごりごり。
だって忘れてんだもんね。

だから教えてあげます。

今の私が住んでいるブレインはね、高さがなくなって平面で、ステップアップなだけじゃ、
時々、丸い何かが、沢山沢山、広がっていくのを感じることがあります。

たまに。

たまーにね。

私のブレインでは雨が降ります！

雨のダンス。

終劇